第2章　調 査 結 果

第２章　調査結果

１　食品ロスについて

食品ロスについて、以下の質問にお答えください。

（１）食品ロスの認知度

問１　あなたは食品ロスという言葉を知っていましたか。（○は１つ）

食品ロスの認知度については、「意味を含めて知っている」が 92.9%と最も多く、次いで「意味は知らないが聞いたことがある」（5.0%）、「知らない」（1.4%）の順となっている。

一方、年齢別にみると、「意味を含めて知っている」の割合は 50 歳代で 96.4%、40 歳代で 95.5%と、50 歳代から 40 歳代の年齢層で高くなっている。

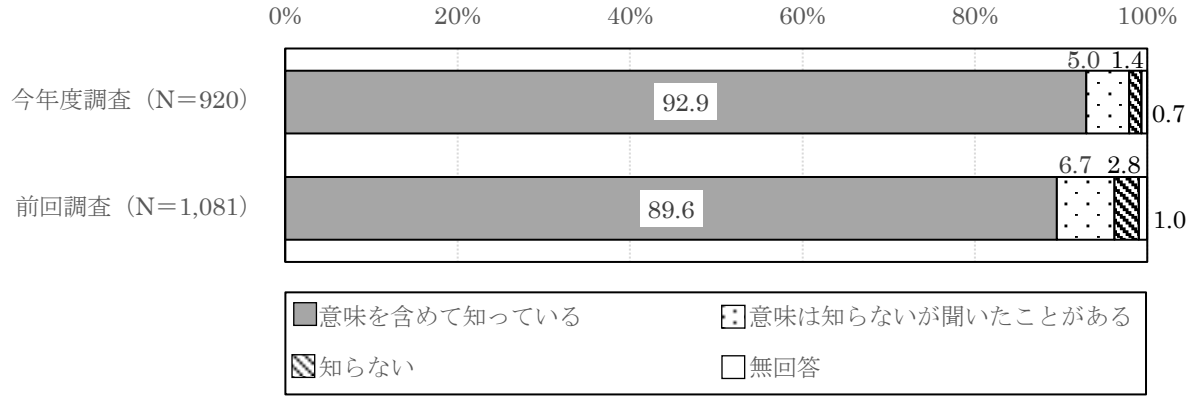

図１－１　食品ロスの認知度

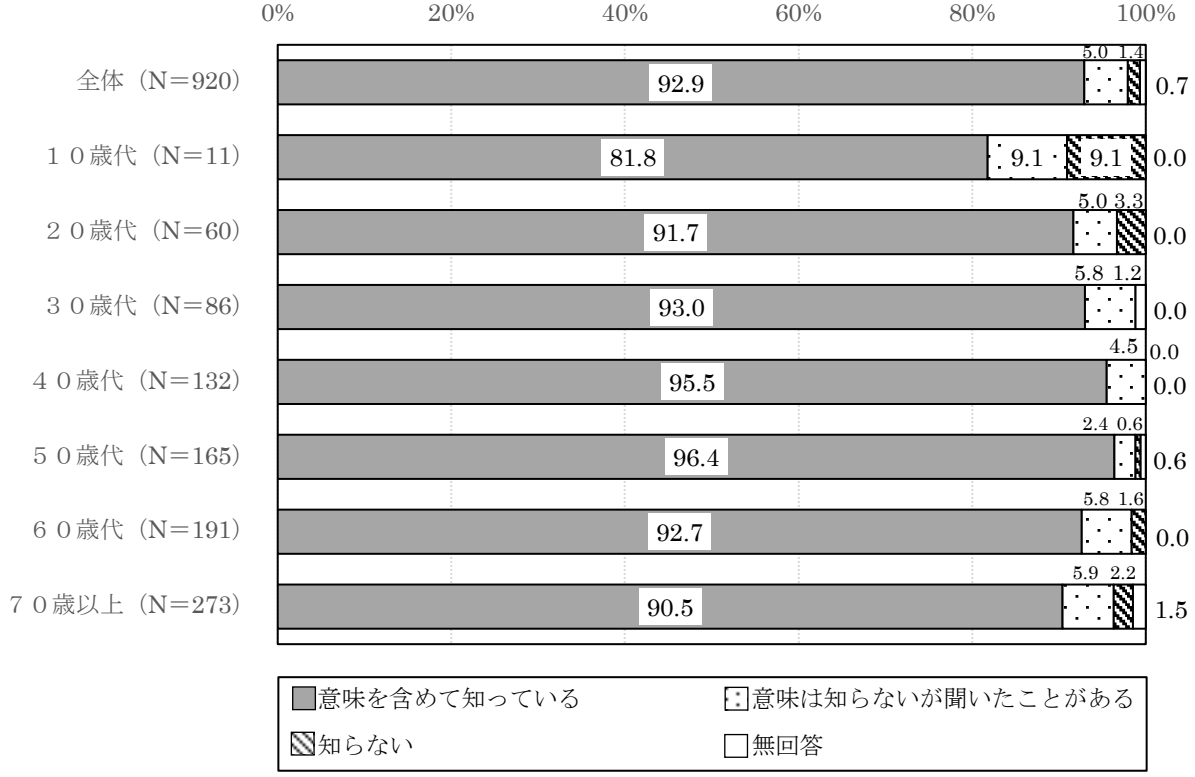

図１－２　年齢別　食品ロスの認知度

（２）食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

問２　あなたの世帯では、食べ残しや手つかず食品（未開封品）を捨ててしまうことはありますか。（○は１つ）

食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度については、「ほとんどない（週１回以下）」が 73.8%と最も多く、以下「たまにある（週２日程度）」（23.2%）、「よくある（週４日以上）」（2.2%）の順になっており、前回調査の結果とほとんど変化はみられない。

これを、年齢別に見るとすべての年代で「ほとんどない（週 1 回以下）」の割合が最も高く、次に多いのは「たまにある（週２日程度）」となっており、年齢による大きな差はみられない。

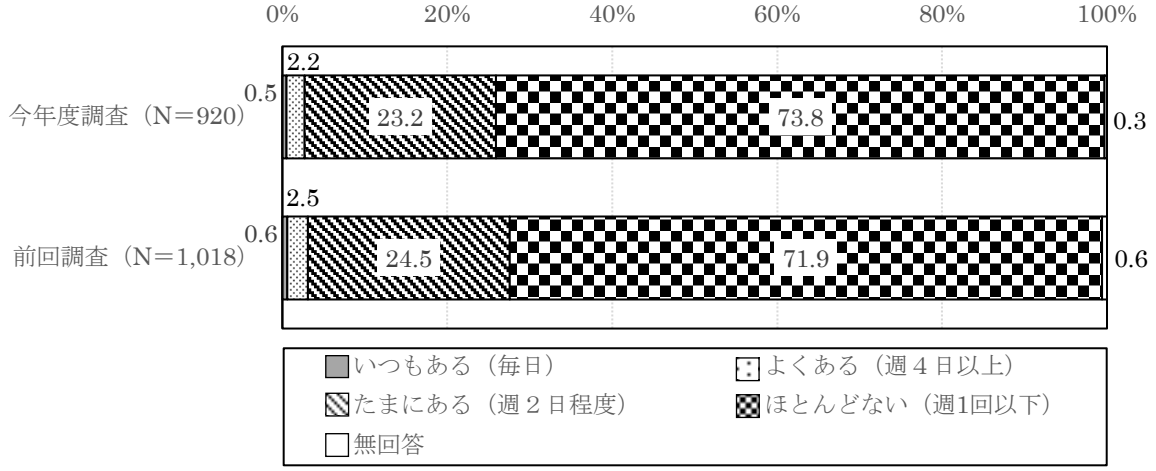

図１－３　食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

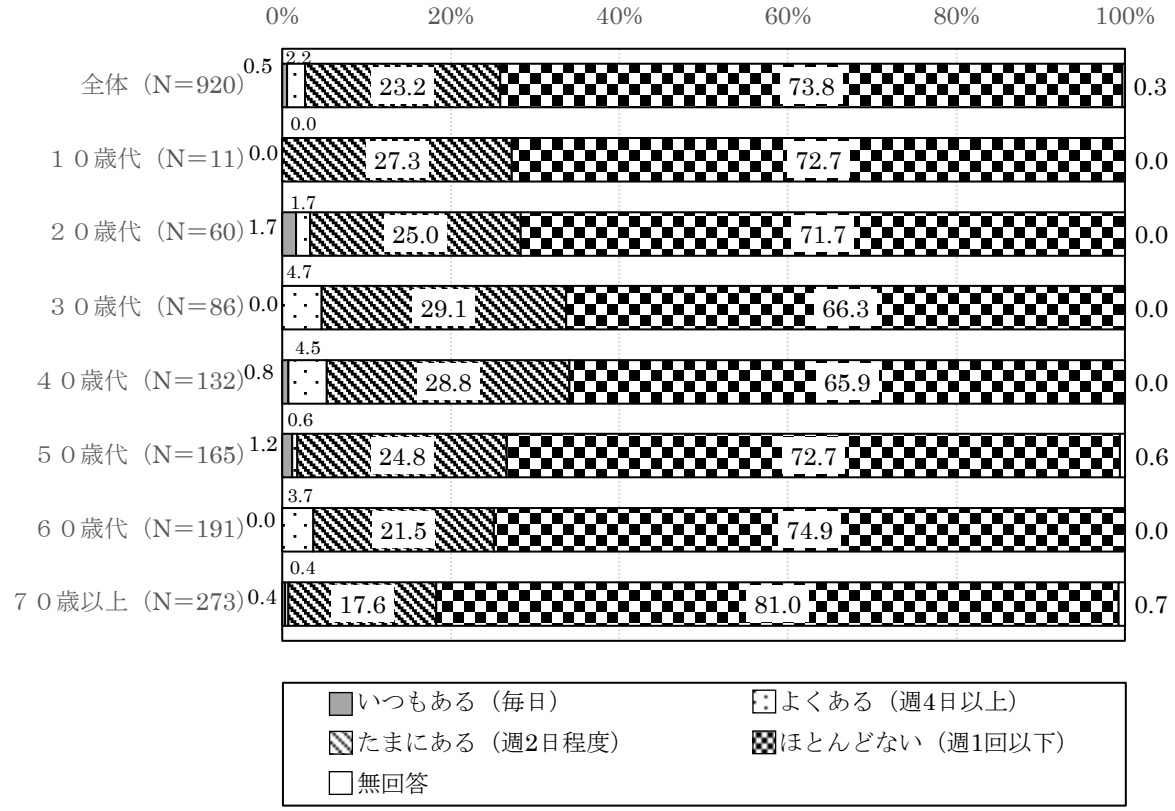

図１－４　年齢別　食べ残しや手つかず食品（未開封品）の廃棄度

（３）食べ残しの廃棄種類

問３　あなたの世帯でよく捨ててしまう食べ残しは何ですか。（上位３つまでお選びください）

食べ残しの廃棄種類については、「捨ててしまう食べ残しは無い」が 40.2％と突出して高く、以下、「汁物」（15.4％）、「煮物」（15.1％）、「サラダ・和え物」（12.9％）の順となっている。

前回調査時の「捨ててしまう食べ残しは無い」は 10.2％であり、今回は 34.3 ポイントと大幅に上昇している。

また、「その他」の内容としては、「賞味期限切れの乳製品」、「賞味期限切れの缶詰」、「レトルト食品」などがあがっている。

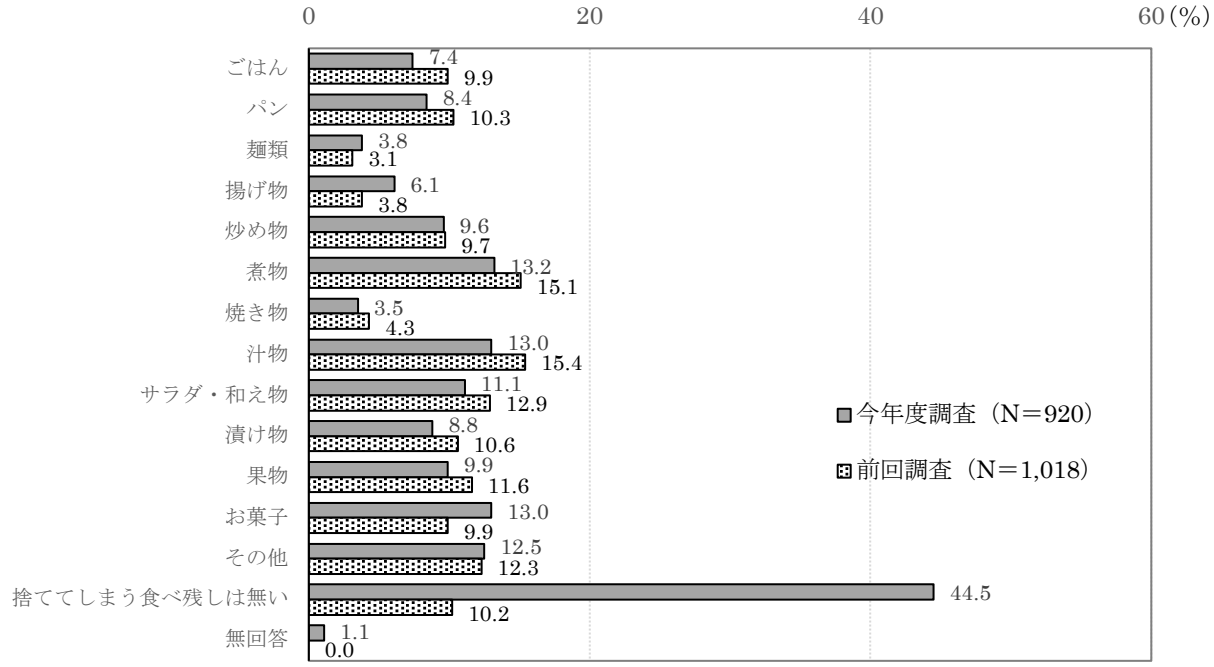

図１－５　食べ残しの廃棄種類

（４）手つかず食品（未開封品）の廃棄種類

問４　あなたの世帯がよく捨ててしまう手つかず食品（未開封品）は何ですか。
（上位３つまでお選びください）

手つかず食品（未開封品）の廃棄種類については、「捨ててしまう手つかず食品は無い」が 44.3%と最も多く、以下、「野菜類」（24.9%）、「調味料」（16.4%）の順となっている。
また、「その他」の内容としては「缶詰」、「災害用の備蓄」、「頂き物」などがあがっている。

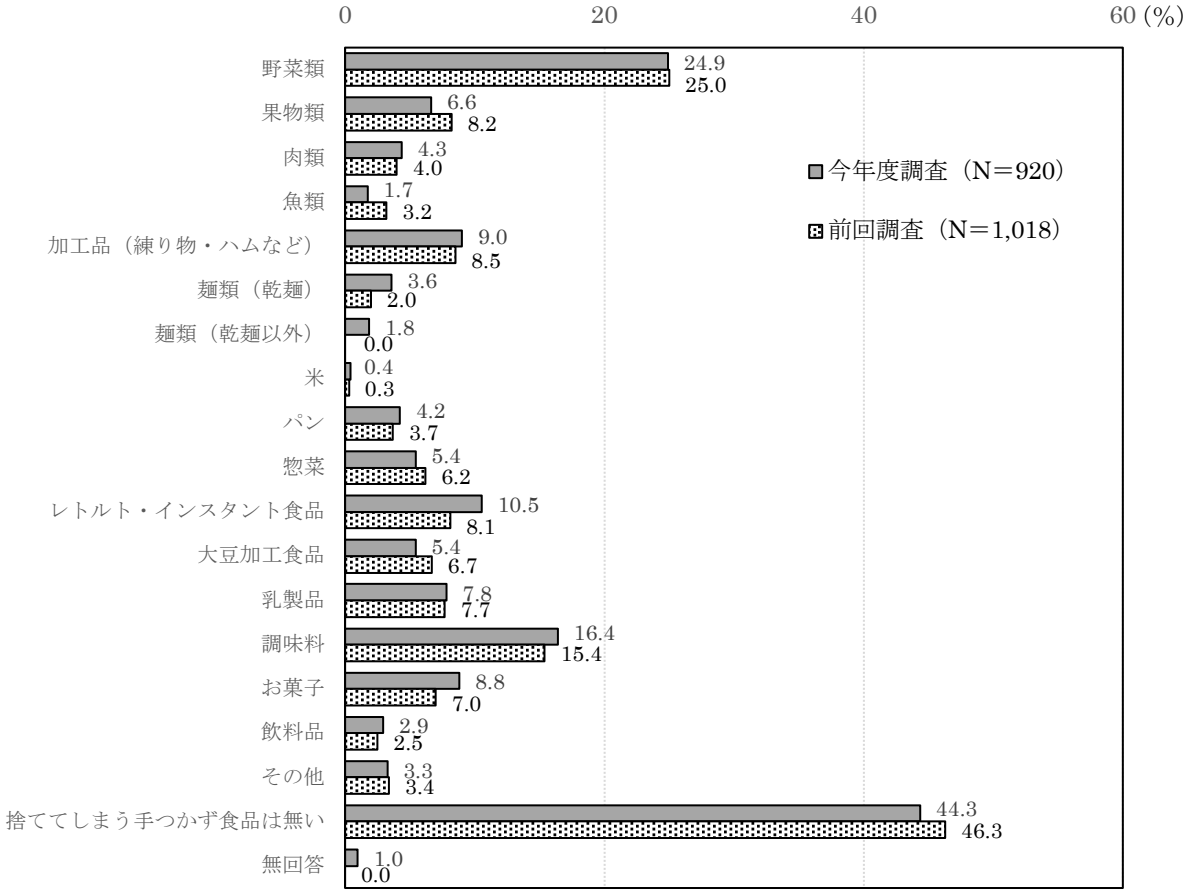

図１－６　手つかず食品（未開封品）の廃棄種類

（５）食品廃棄の理由

問５　あなたの世帯で食品を捨ててしまう主な理由は何ですか。（上位２つまでお選びください）

食品を捨ててしまう主な理由は、「保存していた食材の使い忘れ」が 44.7％と最も多く、次いで「保存していた料理の食べ忘れ」（26.1％）、「食品を捨てることはない」（25.9％）の順となっている。

「頂き物のもらい過ぎ」に関しては前回調査（8.1％）から 3.2％上昇しており、微増している。なお、「その他」の内容としては「使用頻度が少ない調味料の賞味期限切れ」、「子どもの食べ残し」などがあがっている。

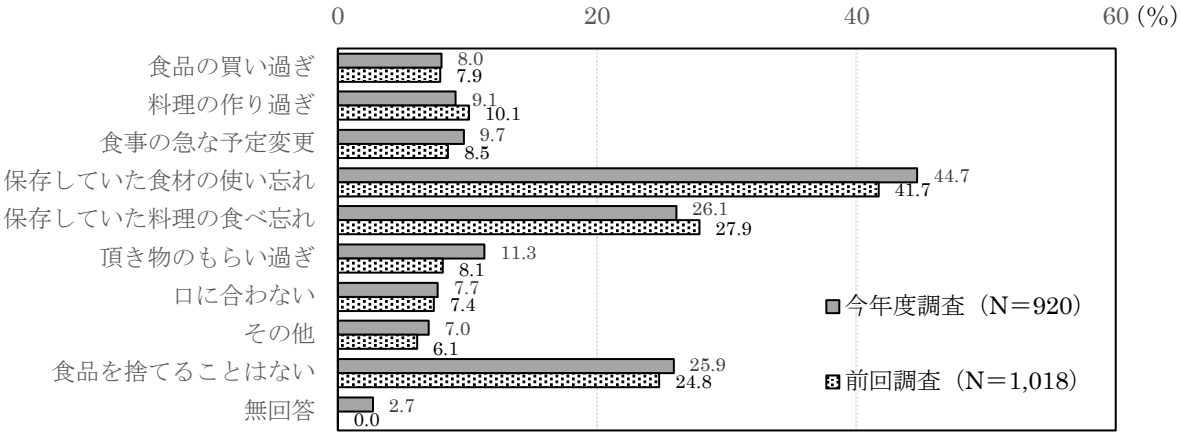

図１－７　食品廃棄の理由

（６）食品購入時の注意点

問６　あなたの世帯で食品を購入する時に気をつけていることは何ですか。（○は該当するものすべて）

食品を購入する時の注意点については、「事前に買い物メモをつくる」が 56.5％と最も多く、次いで「商品や食べる時期によって賞味期限・消費期限を考慮して選ぶ」（53.9％）と「買い物前に冷蔵庫の中身を確認する」（51.0％）となっており、いずれも全体の半数を超えている。

また、「衝動買いをしない」（26.7％）、「小分け・バラ売りのものを選ぶ」（22.7％）も一定数の世帯に見受けられ、前回調査と同様の傾向がみられる。

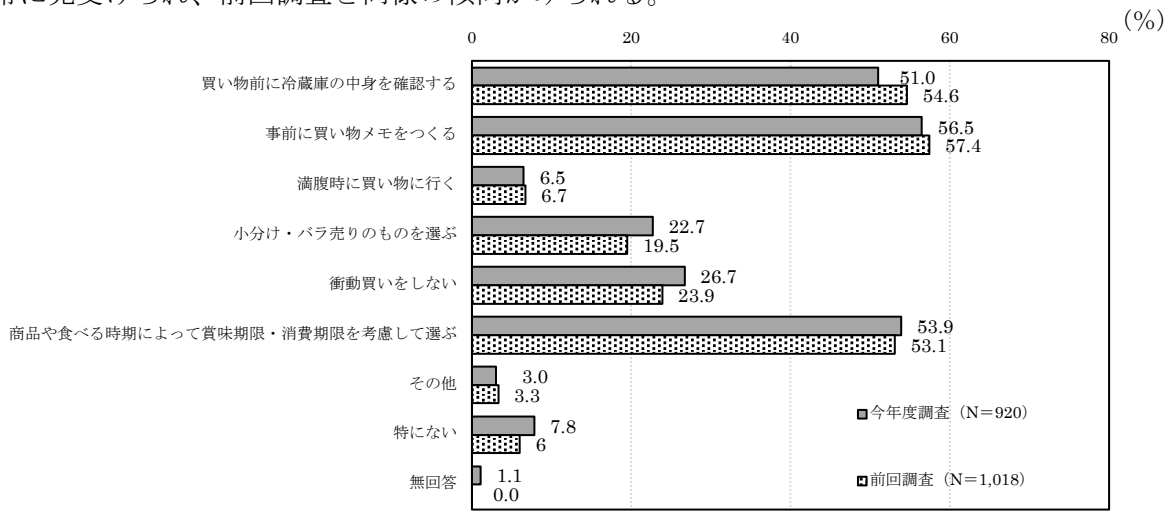

図１－８　食品購入時の注意点

（７）食品保存の実践方法

問７　あなたの世帯で冷蔵庫に食品を保存するときに実践していることは何ですか。
（○は該当するものすべて）

食品保存の実践方法については、「定期的に冷蔵庫の中身を確認する」が 53.3％と約半数を占め、次いで「食材ごとに定位置を決める」（39.9％）、「小分けにして保存する」（37.4％）となっている。

また、「その他」の内容としては、「冷凍保存する」「賞味期限の近いものは冷蔵庫の手前に置いておく」などがあがっている。

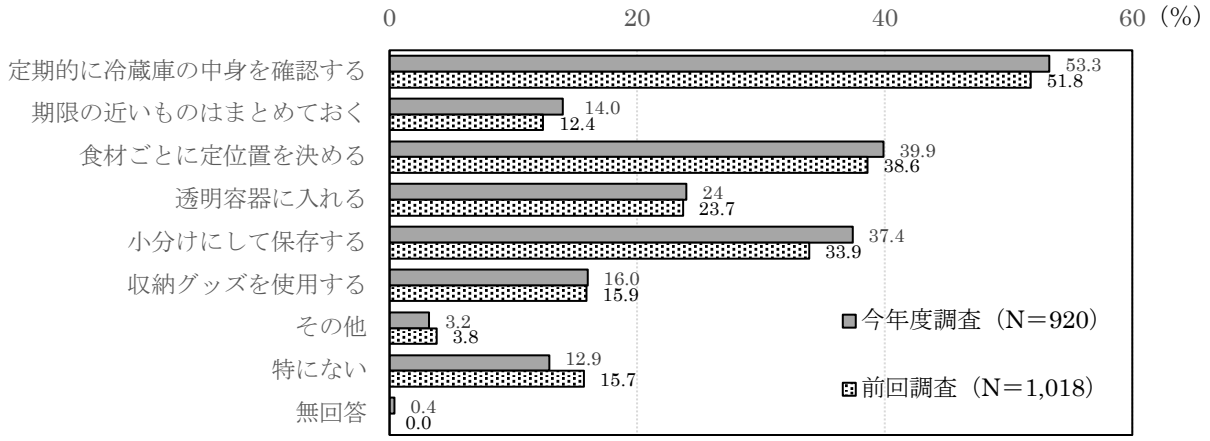

図１－９　食品保存の実践方法

（８）食品ロスを減らす余地

問８　あなたは、あなたの世帯の食品ロスを減らす余地があると思いますか。
（○は１つ）

食品ロスを減らす余地については、「まだ減らせる」が 53.3％と最も多く、次いで「食品ロスは出ない」（22.0％）、「わからない」（13.5％）の順となっており、前回調査から大きな変化はみられない。

これを、年齢別にみるとすべての年代で「まだ減らせる」が最も多く、次に多いのは「食品ロスは出ない」となっている。

なお、70 歳以上に関しては他の年代と比較して「まだ減らせる」の割合が若干低くなっており、「食品ロスは出ない」が 34.4％と高い数値になっている。

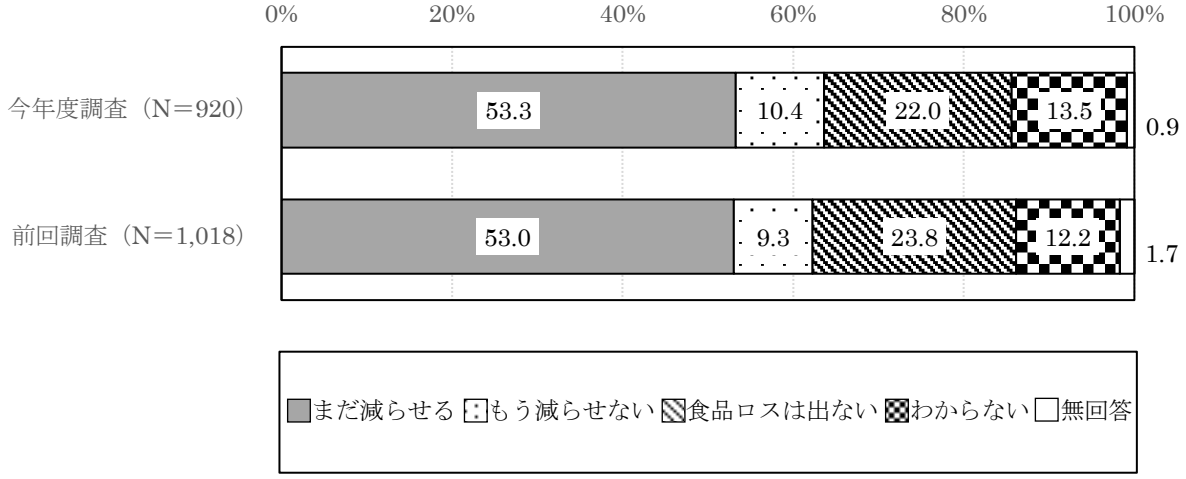

図１－１０　食品ロスを減らす余地

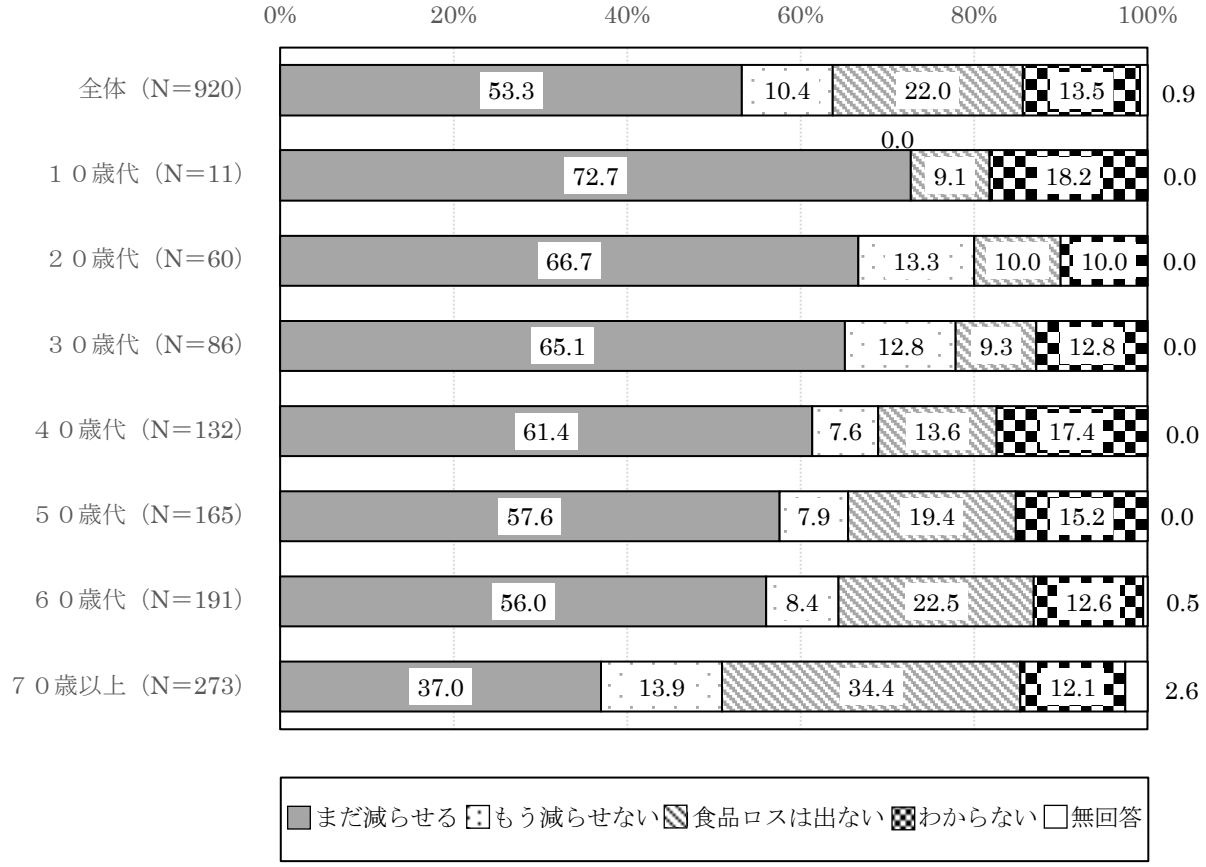

図１－１１　年齢別　食品ロスを減らす余地

（９）食品ロス削減による効果

問９　（あなたの世帯に限らず）あなたは一般家庭からの食品ロスが減ると、どんな効果があると思いますか。（○は該当するものすべて）

食品ロスが減ると、どのような効果があるかを尋ねたところ、「食費節約」が 77.1％と最も多く、次いで「ごみ焼却エネルギーの節約」（65.2％）、「有料ごみ袋の節約」（54.1％）の順となっている。

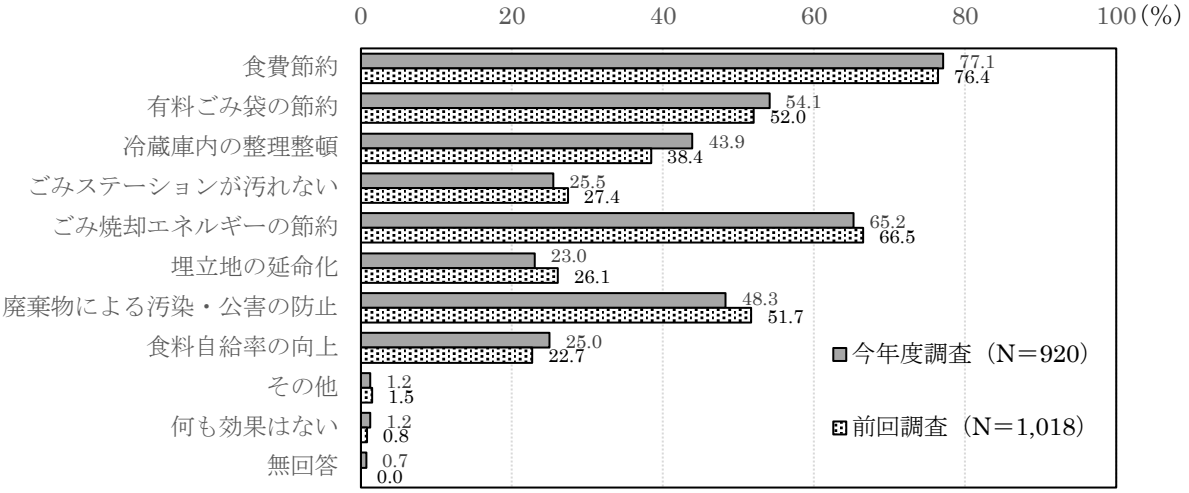

図１－１２　食品ロス削減による効果

（10）食品ロス削減の意識度

問 10　あなたはこの２～３年で、「食品ロス削減」の意識は高まりましたか。（○は１つ）

食品ロス削減の意識度については、「どちらかと言えば高まった」が 40.3%と最も多く、「どちらとも言えない」（27.2%）、「高まった」（26.2%）となっている。

これを、年齢別にみると、すべての年代で「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』の割合は、年齢層が高くなるにつれて大きくなる傾向がみられ、70 歳以上では 74.0%となっている。

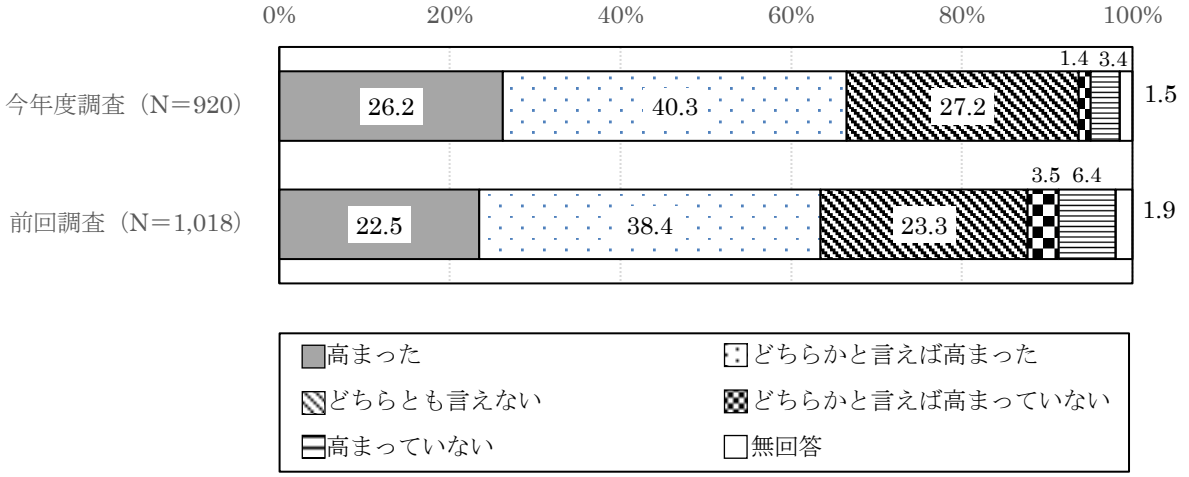

図１－１３　食品ロス削減の意識度

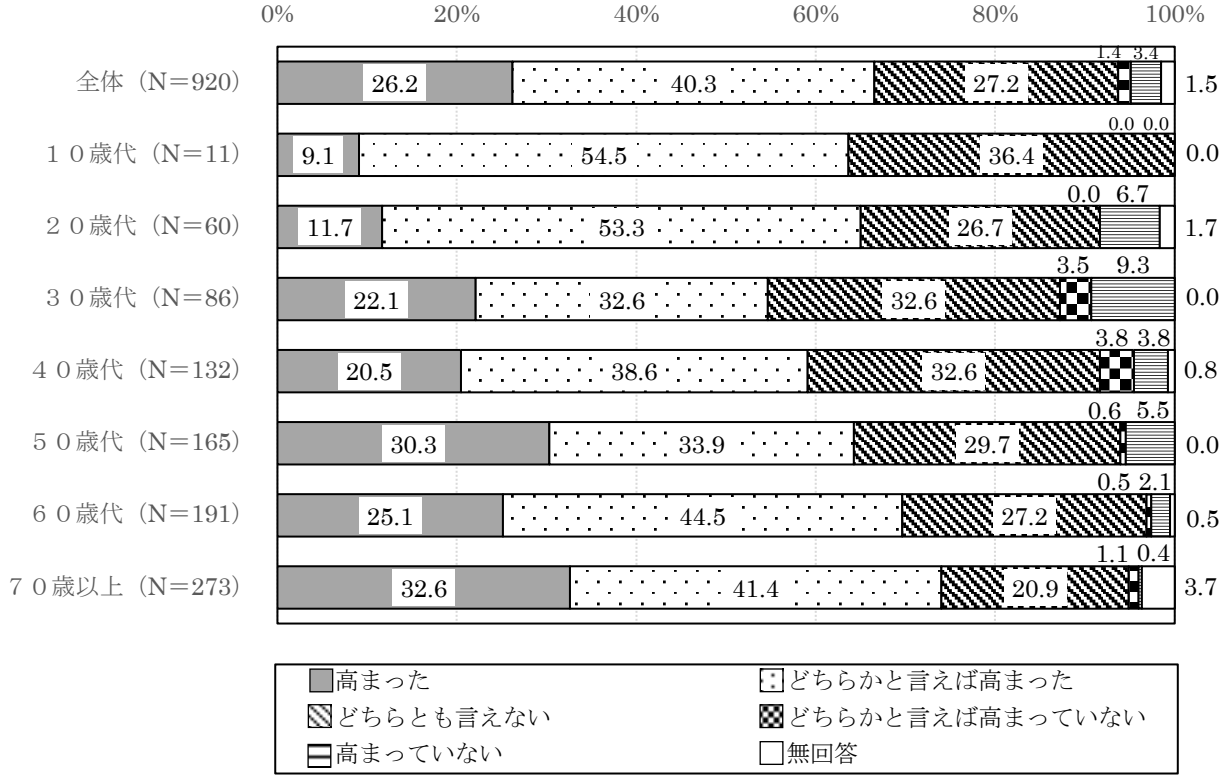

図１－１４　年齢別　食品ロス削減の意識度

また、家族構成別ではその他を除くすべての世帯で「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』の割合が高く、一人暮らしに関しては 34.6%と他の家族構成と比較して高い数字となっている。

さらに、居住形態別にみると、一戸建て、マンション・アパートとも「高まった」と「どちらかと言えば高まった」を合わせた『高まった派』が 60%を超える数字となっており、居住形態による大きな差異はみられなかった。

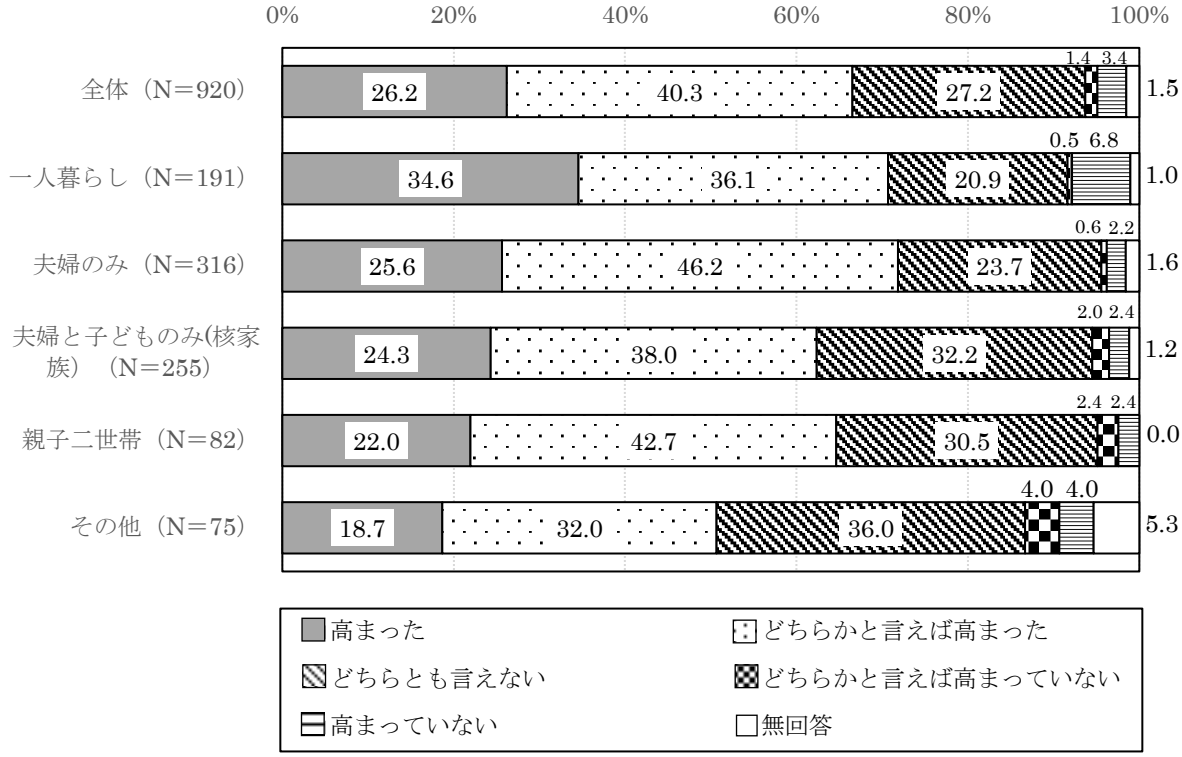

図１－１５　家族構成別　食品ロス削減の意識度

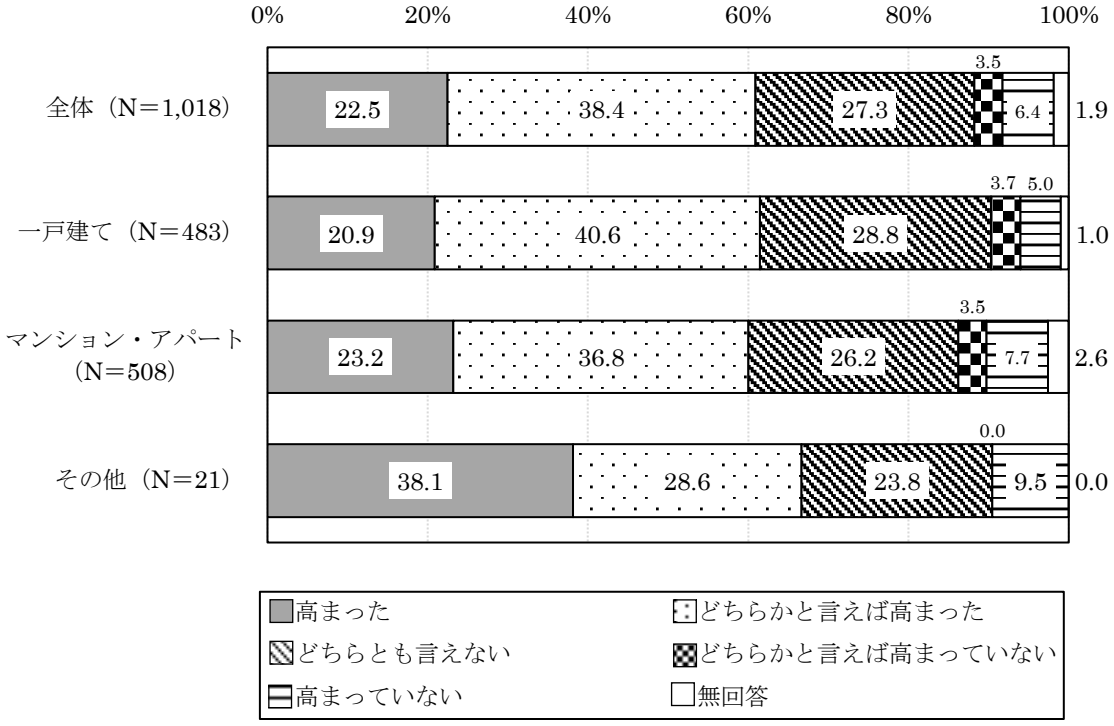

図１－１６　居住形態別　食品ロス削減の意識度

ここで、食品ロス削減の意識度を食品ロスを減らす余地別にみると、『まだ減らせる』と回答した人においては、「どちらかと言えば高まった」の割合が 47.8%と高くなっている。

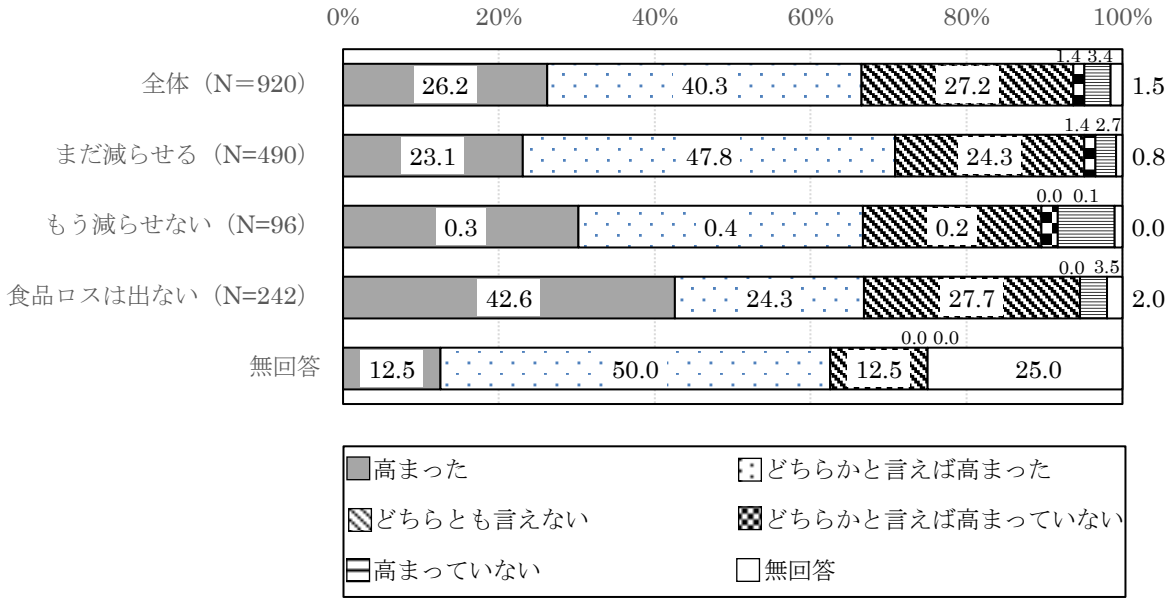

図１－１７　食品ロスを減らす余地別　食品ロス削減の意識度

（11）食品ロス削減の意識が高まったきっかけ

＜問 10 で「１ 高まった」、「２ どちらかと言えば高まった」に○をつけた方に伺います＞

問 11　あなたの「食品ロス削減」の意識が高まったきっかけは何ですか。（○は該当するものすべて）

食品ロス削減の意識が「高まった」「どちらかと言えば高まった」と回答した人に理由を尋ねたところ、「マスコミの報道を見て」が 70.1%と最も多く 7 割を超えており、前回調査よりも 6,7 ポイント上昇している。

一方、「札幌市の啓発」は 13.6%となっており、少数ではあるが一定数の方がいるとみられるが、前回調査よりも 2 ポイント減少している。

また、「その他」の内容としては、「物価高で生活に余裕がなくなった」「収入減」などがあがっている。

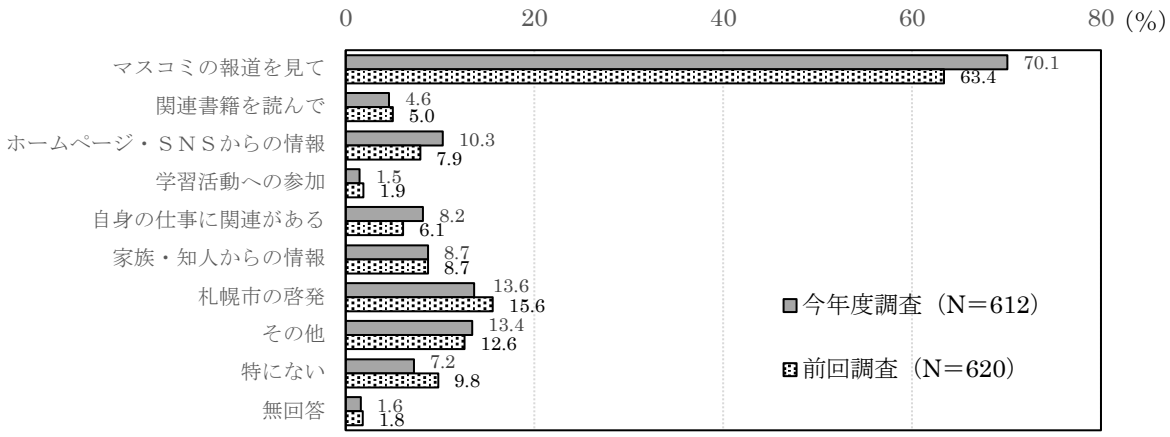

図１－１８　食品ロス削減の意識が高まったきっかけ

(12) 「TEAM 変エル」・「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」の認知情報媒体

問 12　あなたは「TEAM 変エル」または「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」というフレーズを見た、または聞いたことがありますか。（○は該当するものすべて）

「TEAM 変エル」または「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」というフレーズを見聞きしたことがあるかを尋ねたところ、「見ていない・覚えていない」が 72.3%と最も多く、7 割を占めており、以下「わからないが、どこかで見た」(8.0%)、「テレビで見た」(6.7%)、「新聞・フリーペーパーで見た」(5.1%) の順となっている。

なお、「その他」の内容としては「町内会の講座」などが挙げられていたが、一方で「全く知らなかった」、「存在自体知らない」などの回答も多くみられた。

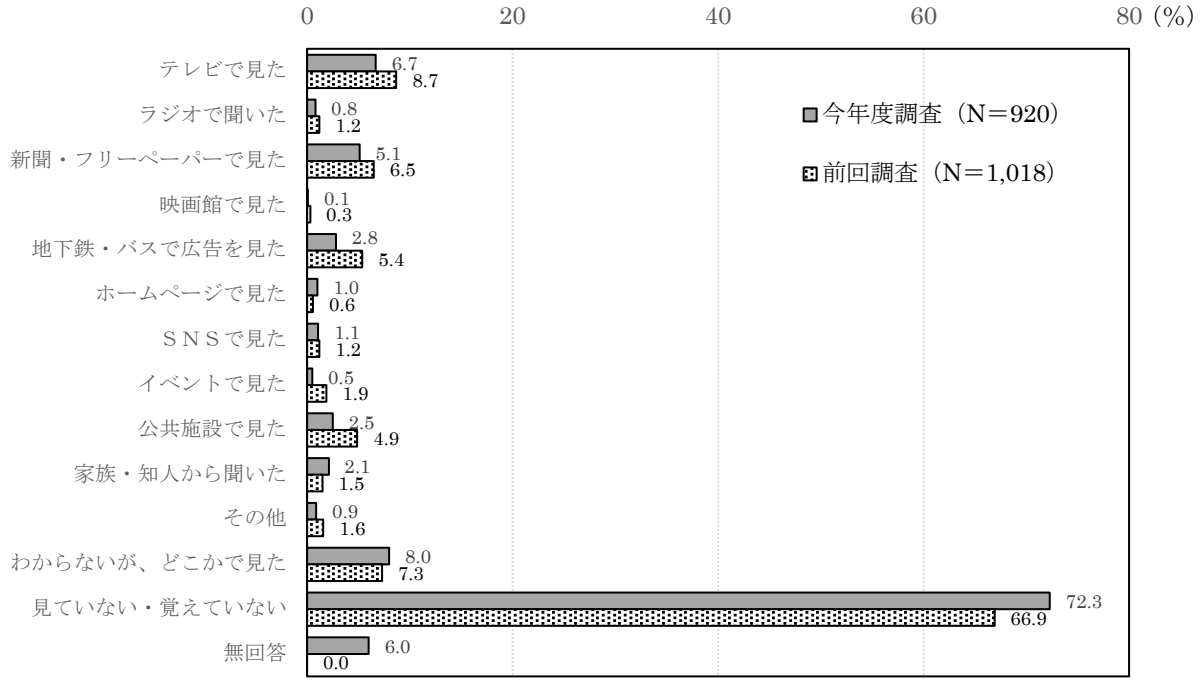

図１－１９　「TEAM 変エル」・「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」の認知情報媒体

（13）「3010 運動」「2510 スマイル宴」の認知度

問 13　外食時の食品ロスを削減するために、宴会や会食の開始後 30 分間と終了前 10 分間は自分の席で料理を楽しむ運動を「3010（サンマルイチマル）運動」といいます。札幌市では「さっぽろスマイル」をコンセプトに「2510(ニコッと)スマイル宴(うたげ)」として、宴会や会食の開始後25分間と終了前10分間は自分の席で料理を楽しむことを呼びかけています。あなたは「2510（ニコッと）スマイル宴（うたげ)」または「3010（サンマルイチマル）運動」を知っていましたか。

「3010 運動」「2510 スマイル宴」を知っているかを尋ねたところ、「両方知らなかった」(90.3%)が最も多く 9 割を占めており、「3010 運動のみ知っていた」（3.4%）、「両方知っていた」（1.8%）の順となっている。

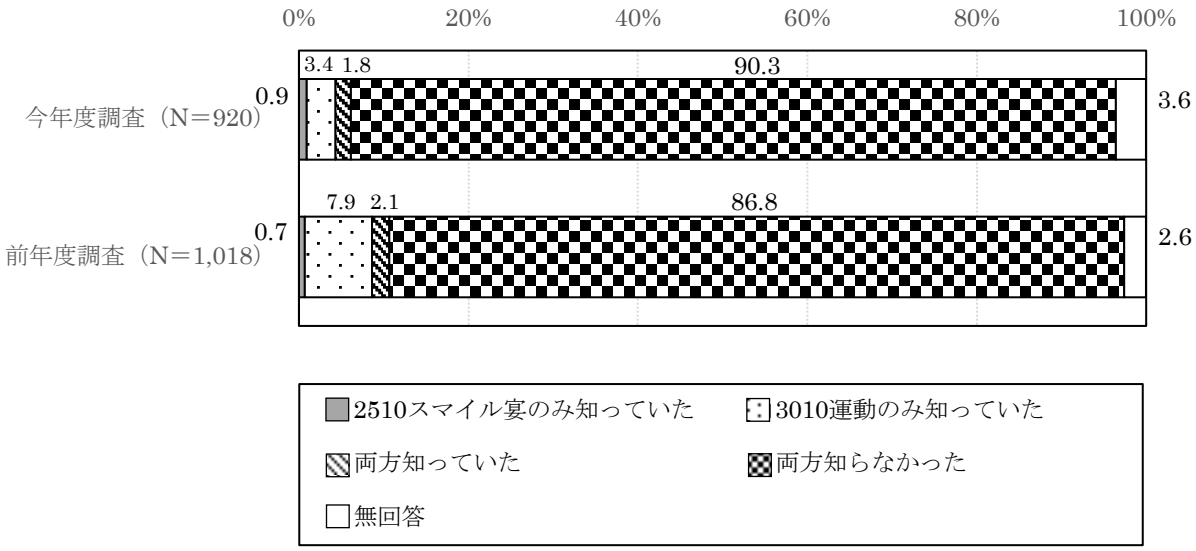

図１－２０　「3010 運動」「2510 スマイル宴」の認知度

（14）「3010 運動」「2510 スマイル宴」の実践度

問 14　<u>＜問 13 で「１　2510 スマイル宴のみ知っていた」「２　3010 運動のみ知っていた」「３　両方知っていた」に〇をつけた方に伺います＞</u>
あなたは「2510 スマイル宴」または「3010 運動」を実践したことがありますか

「3010 運動」「2510 スマイル宴」を実践したことがあるかを尋ねたところ、「実践したことがない」（55.4%）が半数以上を占めているが、「実践したことがある」については 41.4%と前年度調査よりも 4.4 ポイントの上昇がみられる。

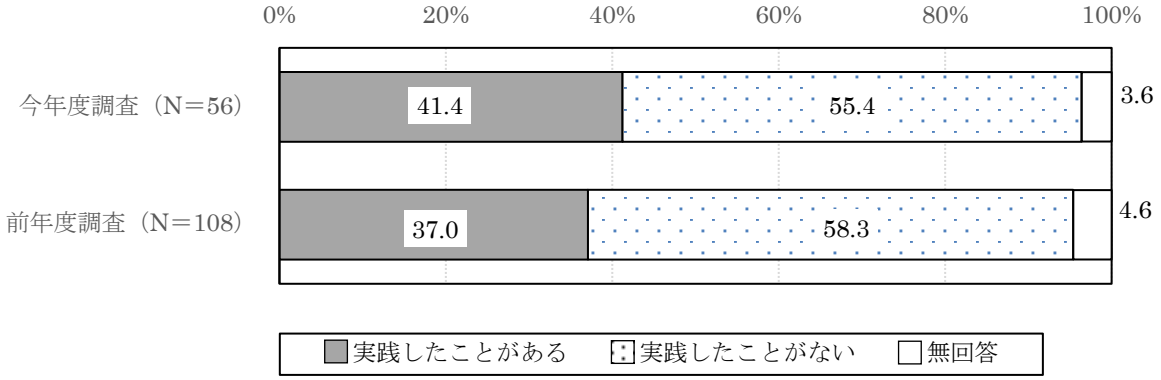

図１－２１　「3010 運動」「2510 スマイル宴」の実践度

２　生ごみの水切りについて

家庭から出る生ごみは、約 75%が水分であると言われていることから、札幌市では、家庭における生ごみ減量の方法の一つとして、水切りをご紹介しています。
生ごみの水切りについて、以下の質問にお答えください。

（１）　水切りへの関心度

問 15　あなたは生ごみ減量の取り組みとして、水切りは有効だと思いますか。（○は１つ）

水切りへの関心度については､｢有効である｣が 64.0%と最も多く､｢ある程度有効である｣(25.1%)を合わせた『有効派』は 89.1%と高い数字となっている。
一方、年齢別にみると、「有効である」の割合は 70 歳以上で 74.0%、60 歳代で 72.8%、50 歳代で 62.4%と年齢層に比例して高くなっている。

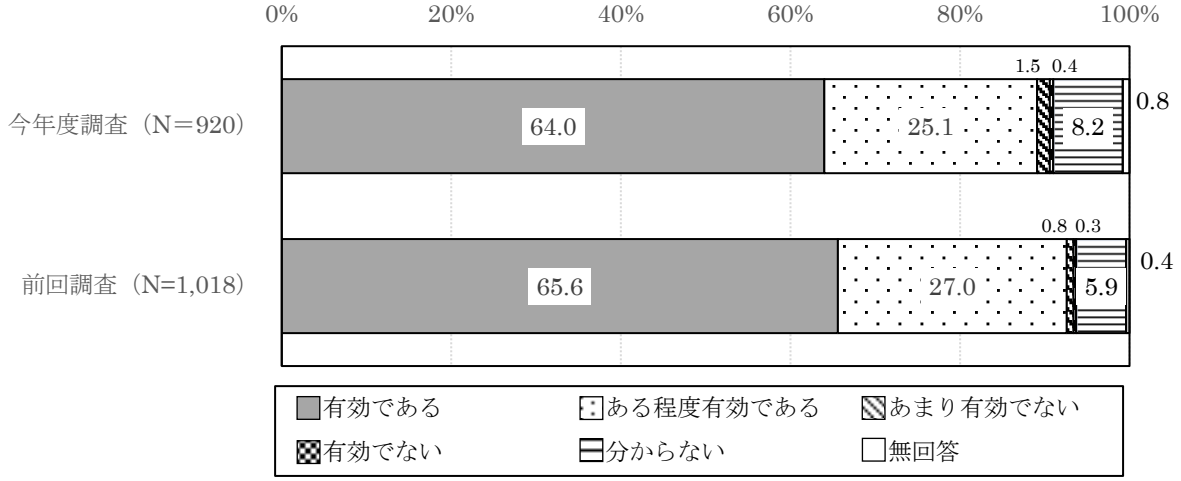

図２－１　水切りへの関心度

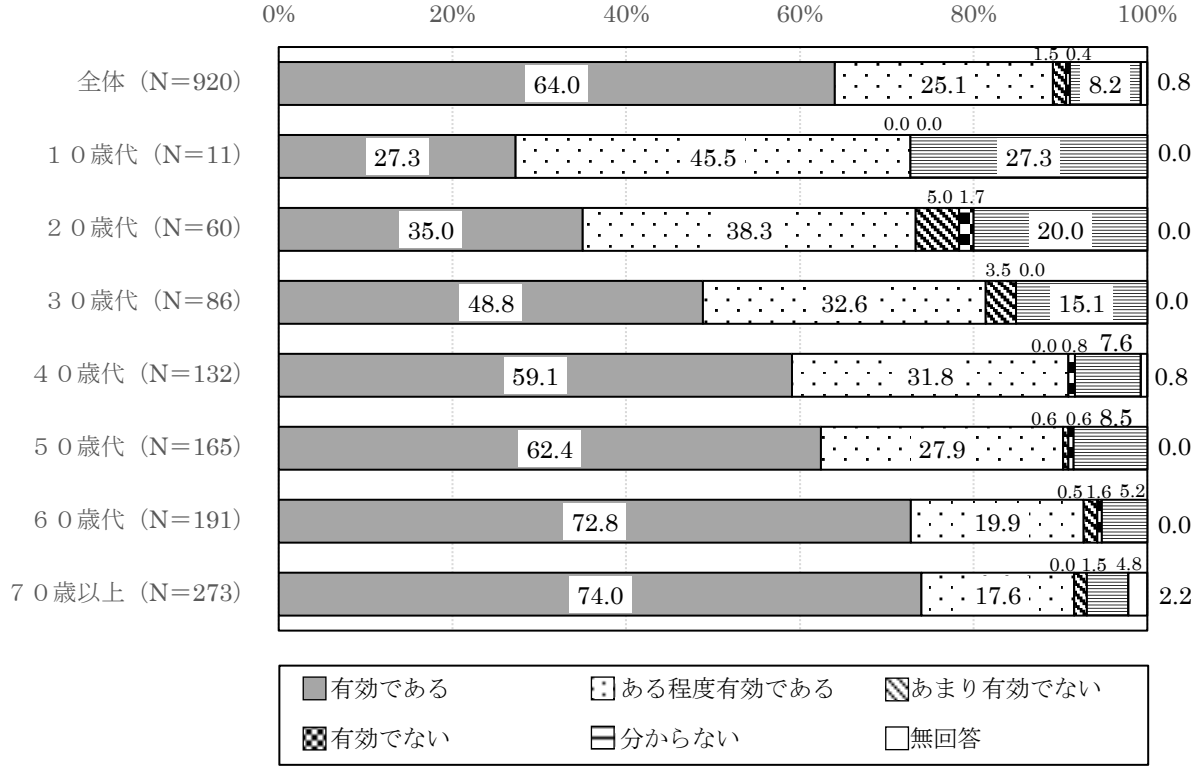

図２－２　年齢別　水切りへの関心度

（２） 水切り取り組み状況

問 16　あなたの世帯では生ごみの水切りに取り組んでいますか。（○は１つ）

水切り取り組み状況は、「現在取り組んでいる」が 72.9%と最も多く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」（12.3%）となっている。

前回調査で最も多かったのは今年度調査と同様に「現在取り組んでいる」（77.5%）であり、前回調査より 4.6 ポイント減少しているが、「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」は前回調査（12.0%）よりも 0.3 ポイント増加している。

これを年齢別にみると、すべての年代で「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次に多いのは「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、年齢に比例して取り組み実績が上昇しているようにみえる。

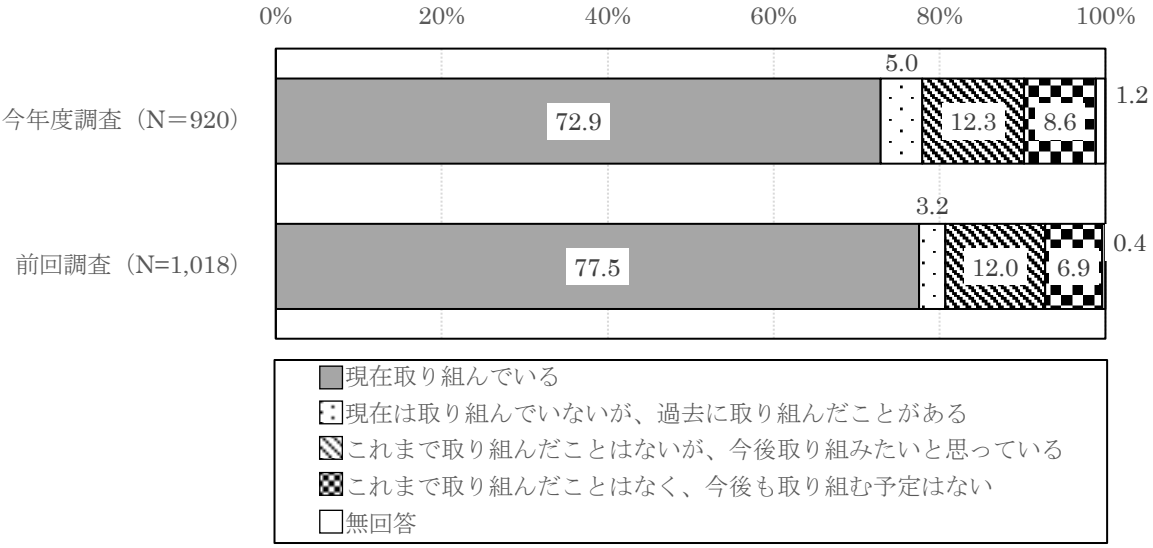

図２－３　水切り取り組み状況

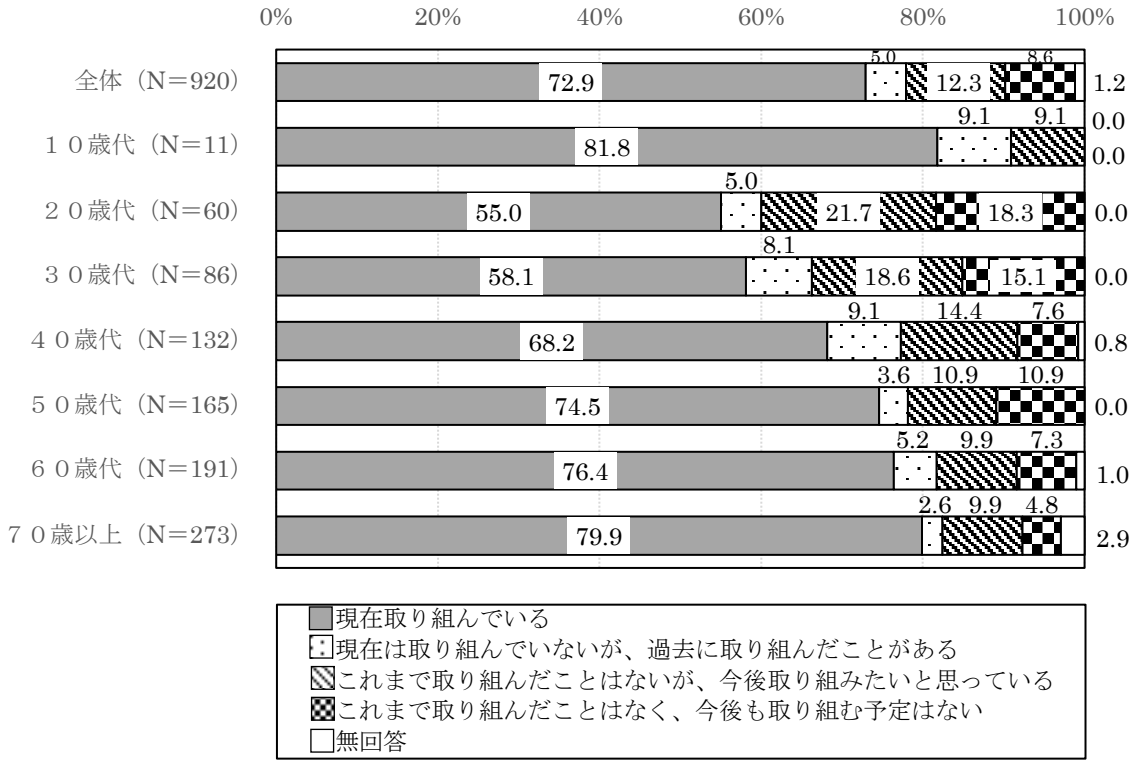

図２－４　年齢別　水切り取り組み状況

また、家族構成別では、すべての世帯で「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、一戸建て、マンション・アパートとも「現在取り組んでいる」の割合が最も高く、次いで「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

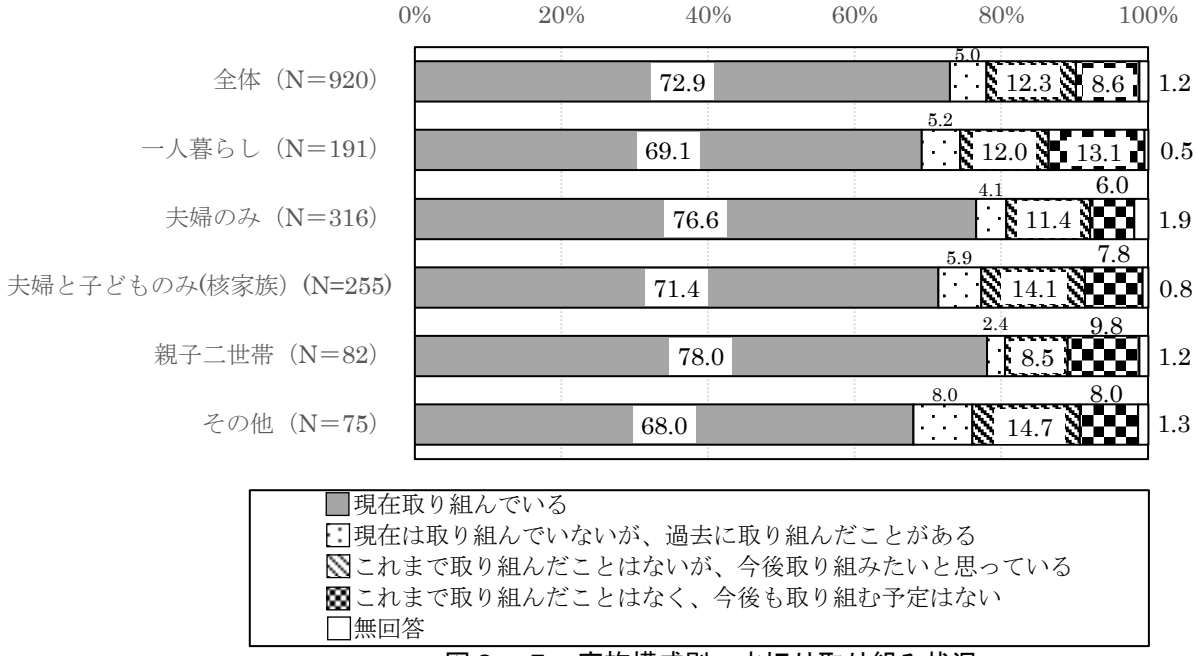

図２－５　家族構成別　水切り取り組み状況

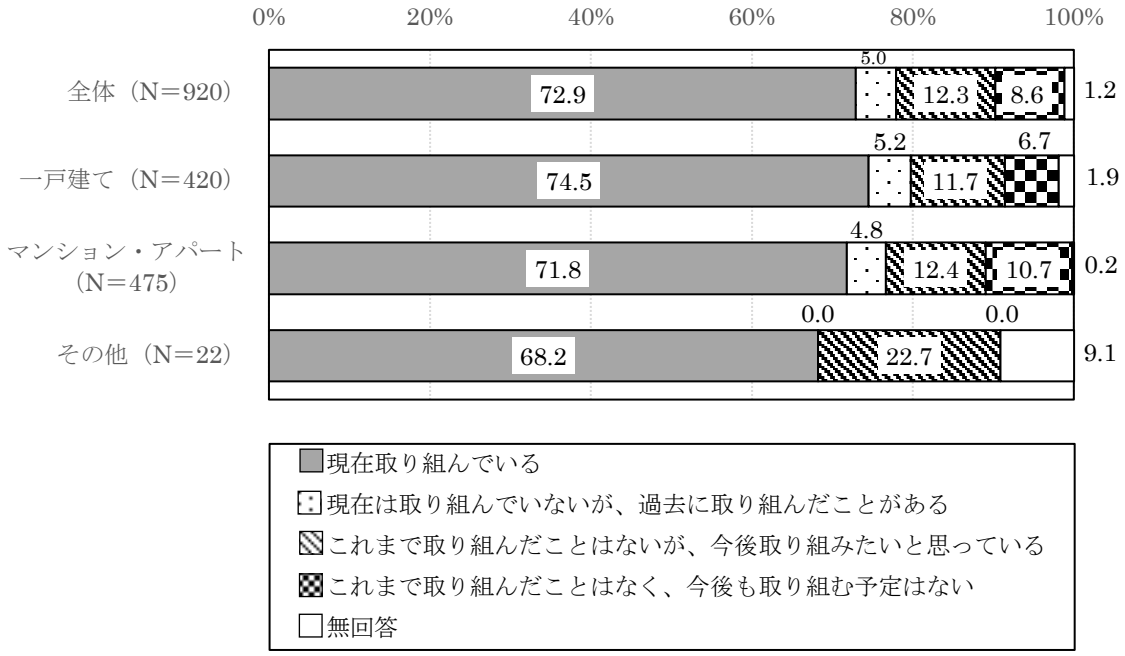

図２－６　居住形態別　水切り取り組み状況

ここで、取り組み状況を水切りへの関心度別にみると、水切りについて『有効である』と回答した人では「現在取り組んでいる」が 83.9%と多くなっており、『ある程度有効である』と回答した人においても 62.3%が「現在取り組んでいる」と回答している。

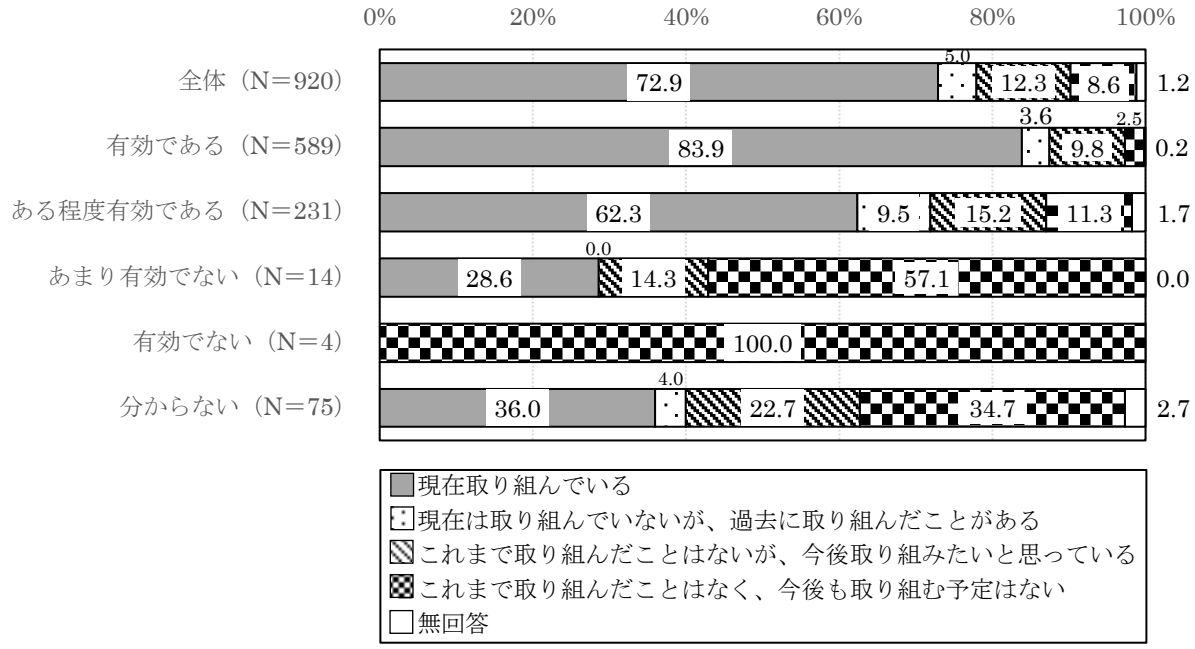

図２－７　水切りへの関心度別　取り組み状況

（３）取り組んでいる水切り方法

＜問 16 で「１　現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞
問 17　あなたの世帯ではどのような方法で水切りを行っていますか。（○は該当するものすべて）

水切りに「現在取り組んでいる」世帯の水切り方法については、「三角コーナーを使用」が 64.1%で前回調査（65.7%）と同様に最も多く、以下、「手や水切り器などでしぼる」（46.6%）、「食材を洗う前に切る（濡らさない）」（12.1%）の順となっており、前回調査と差異はみられない。

また、「その他」の内容としては、「新聞紙に包む」、「ディスポーザーを使用する」などがあがっている。

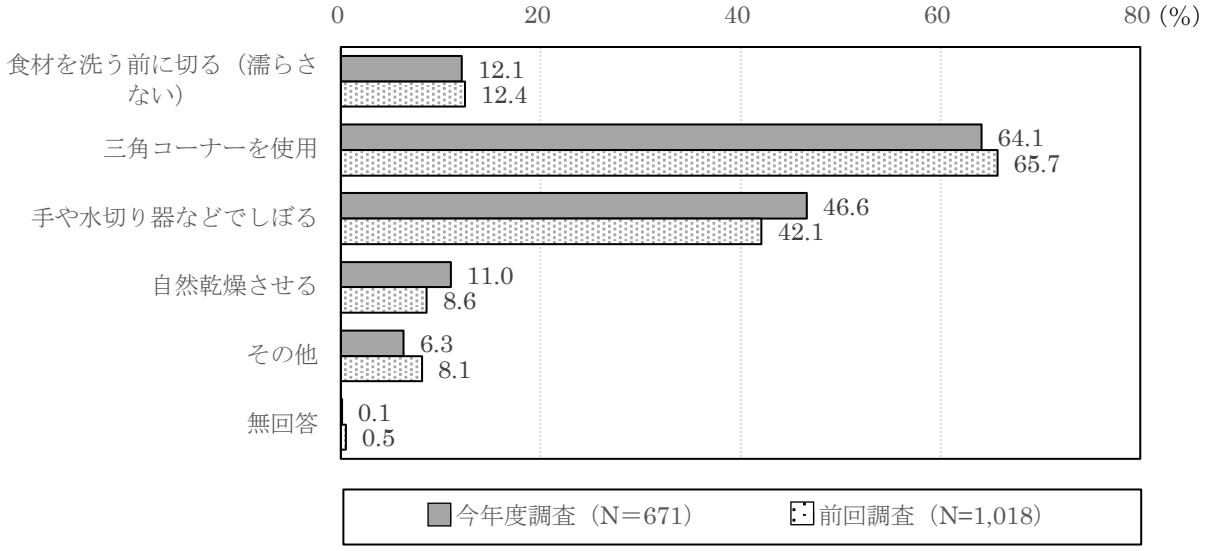

図２－８　取り組んでいる水切り方法

（４）水切りに取り組んでいる理由・目的

＜問 16 で「１ 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞
問 18　あなたの世帯が水切りに取り組んでいる理由は何ですか。（○は１つ）

水切りに取り組んでいる主な理由・目的は、「燃やせるごみを減らしたいから」が 32.0%と最も多く、以下、「においを減らしたいから」（24.7%）、「環境にいいことだから」（17.6%）の順となっている。また、「その他」の内容としては「家庭菜園の肥料にしたいから」、「虫の発生を防ぐため」、「重量を軽くするため」などがあがっている。

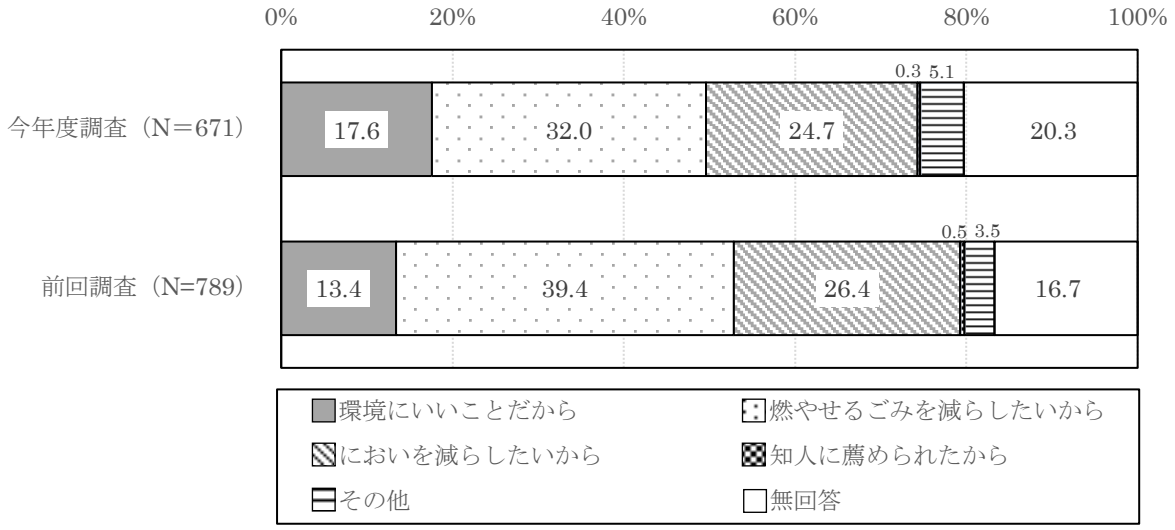

図２－９　水切りに組んでいる理由・目的

（５）水切り実践期間

問 19　水切りに取り組んでいる期間はどのくらいですか。なお、１年未満の場合は「１年」と記入してください。

水切りの実施期間は、「30 年以上」が 23.8%と最も多く、次いで「1 年以上～5 年未満」（21.9%）、「20 年以上～30 年未満」（12.2%）となっている。

前回調査では「10 年以上～20 年未満」が最も多い 25.3%であったが、今年度は 5.5%となっている一方、「30 年以上」と回答した方については 4.4 ポイント上昇している。

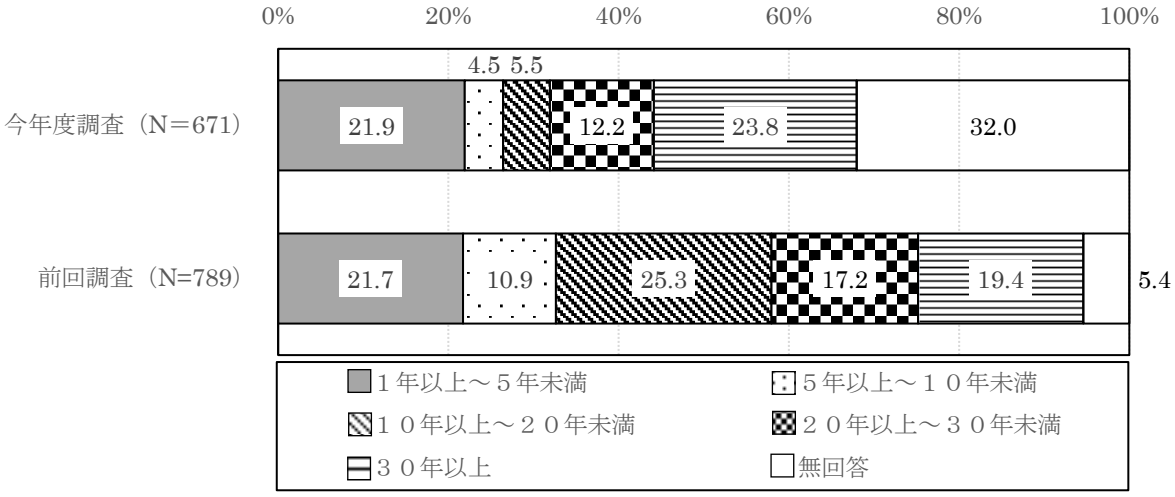

図２－１０　水切り実践期間

（６）水切りに取り組んでいない理由

＜問 16 で「２ 現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」、「３ これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」、「４ これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」に○をつけた方に伺います＞

問 20　現在、水切りに取り組んでいない理由は何ですか。（○は該当するものすべて）

現在水切りに「取り組んでいない」人に理由を尋ねたところ、「手間がかかる」が 41.6%と最も多く、以下、「方法がわからない」（21.8%）、「汚い・触りたくない」（20.2%）、「特に理由はない」（18.5%）の順となっている。また、「その他」の内容としては、「においが気になる」「水切りするほど生ごみが出ない」「そのまま畑に埋めて肥料にするから」などがあがっている。

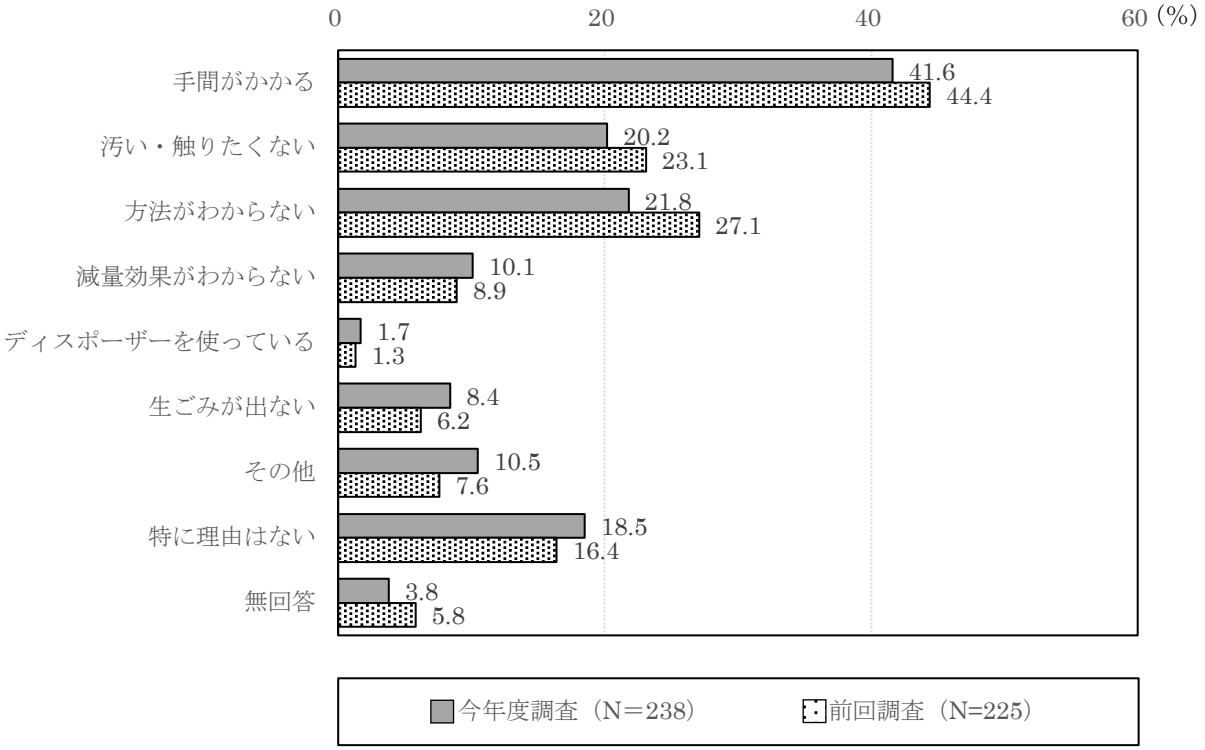

図２－１１　水切りに取り組んでいない理由

３　生ごみ堆肥化の取組について

家庭における生ごみリサイクルの方法の一つとして、生ごみの堆肥化があります。札幌市では、家庭で取り組めるいくつかの堆肥化の方法をご紹介しています。
生ごみ堆肥化の取組について、以下の質問にお答えください。

（１）堆肥化への関心度

問 21　あなたは生ごみ減量・リサイクルの取り組みとして、堆肥化は有効だと思いますか。（○は１つ）

堆肥化への関心度については、「有効である」が 51.8％と最も多く、「ある程度有効である」(33.4％)を合わせた『有効派』は 85.2％と、前回調査（81.2％）以上に高い水準となっている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない 10 歳代を除くと「有効である」の割合は 30 歳代で 59.3％、70 歳以上で 56.4％と、他の年齢層に比べて高くなっている。

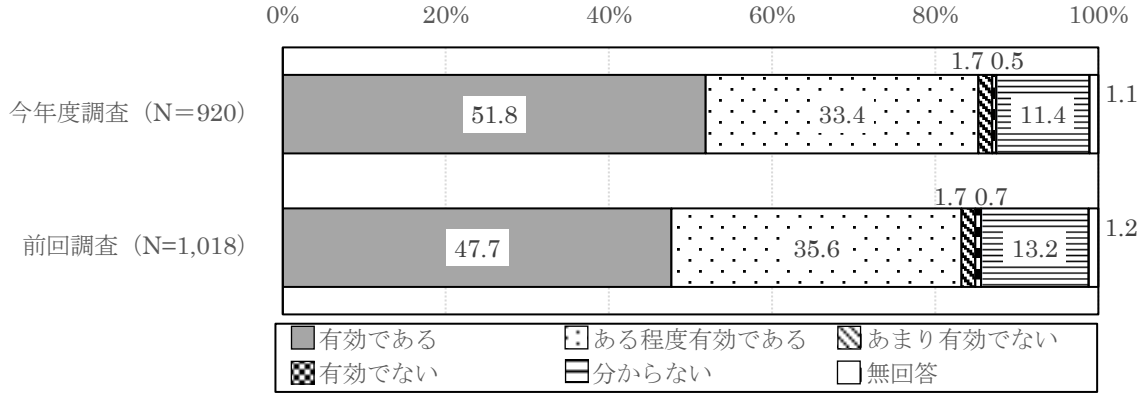

図３－１　堆肥化への関心度

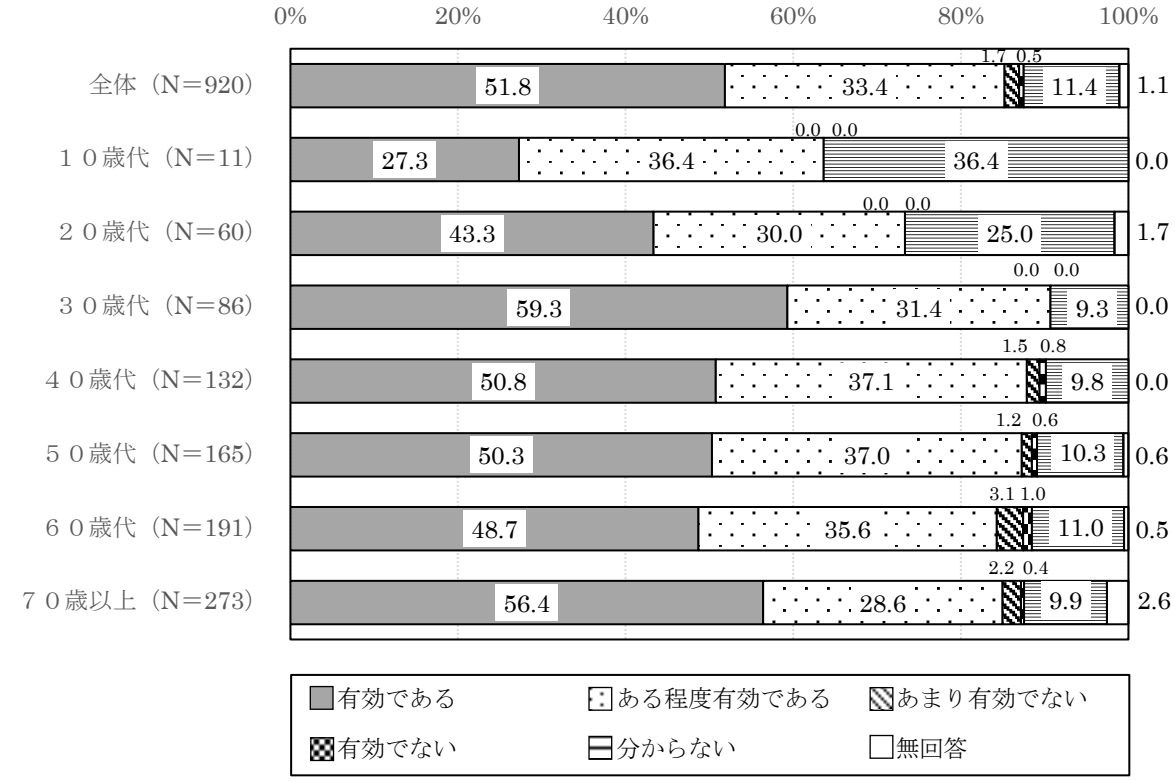

図３－２　年齢別　堆肥化への関心度

（２） 堆肥化への取り組み状況

問 22　あなたの世帯では生ごみ堆肥化に取り組んでいますか。（○は１つ）

堆肥化への取り組み状況については、「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」が 55.2%と最も多く（前回調査 62.0%）、以下、「これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」（19.1%）、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」（16.0%）、「現在取り組んでいる」（7.9%）となっている。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない 10 歳代を除くと、70 歳以上の高齢層では他の年齢層に比べて「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」の割合は低く、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」の割合は高くなっている。

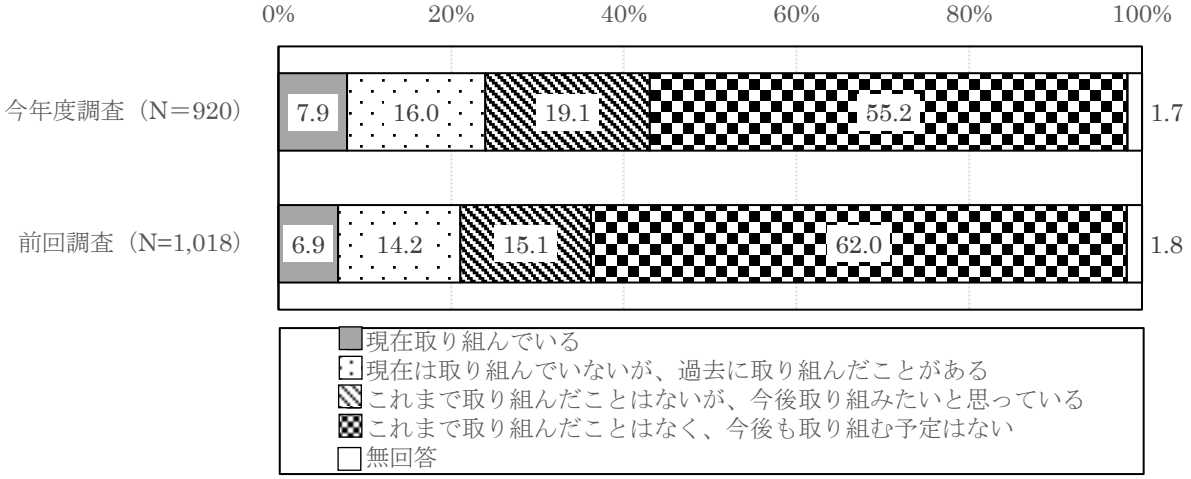

図３－３　堆肥化への取り組み状況

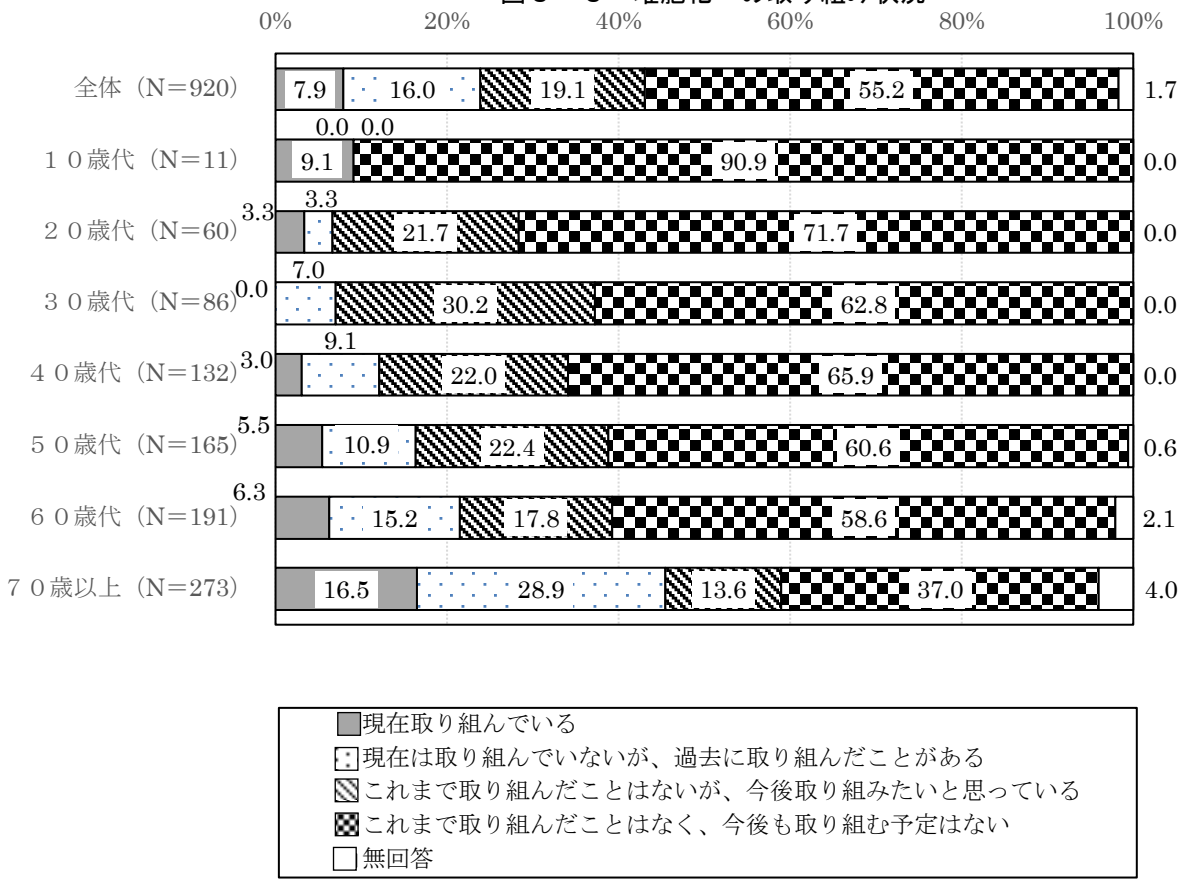

図３－４　年齢別　堆肥化への取り組み状況

また、家族構成別でみると、『一人暮らし』世帯と『夫婦と子どものみ（核家族)』世帯では「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」の割合が他の世帯に比べて高くなっている。

一方、居住形態別では、「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」の割合は、『一戸建て』の 42.9%に対し、『マンション・アパート』で 65.7%と高くなっている。逆に、「現在取り組んでいる」については『一戸建て』で 13.6%であるのに対し『マンション・アパート』では 3.2%、また、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」については『一戸建て』で 21.4%であるのに対し『マンション・アパート』では 11.6%となっており、『一戸建て』の方が堆肥化の経験者が多くなっている。

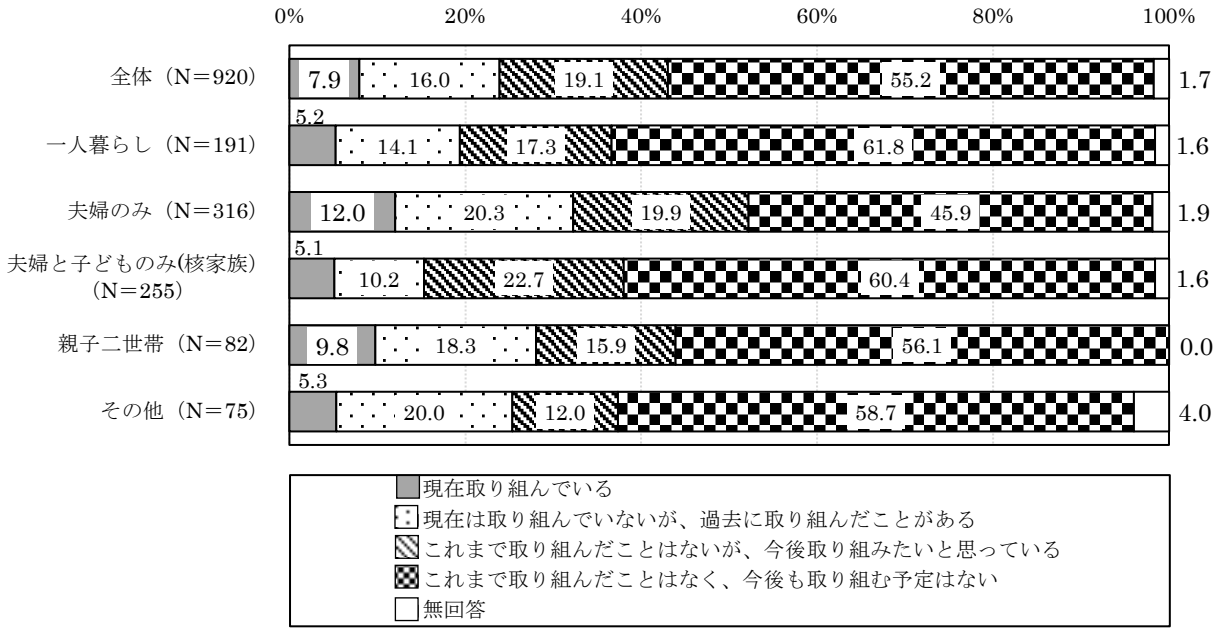

図３－５　家族構成別　堆肥化への取り組み状況

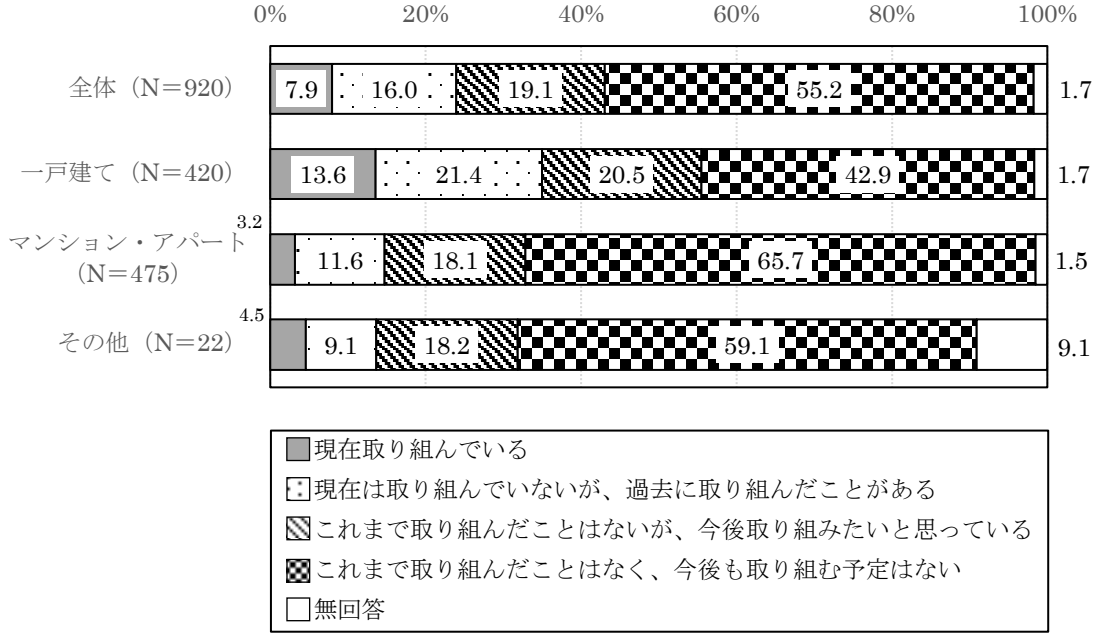

図３－６　居住形態別　堆肥化への取り組み状況

ここで、取り組み状況を堆肥化への関心度別にみると、いずれの関心度においても「これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」が最も多くなっているが、特に堆肥化の有効性について『分からない』と回答した人では84.8%を占めている。

一方、堆肥化は『あまり有効ではない』と回答した人では、「現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」が31.3%と他と比較して高い数値となっている。

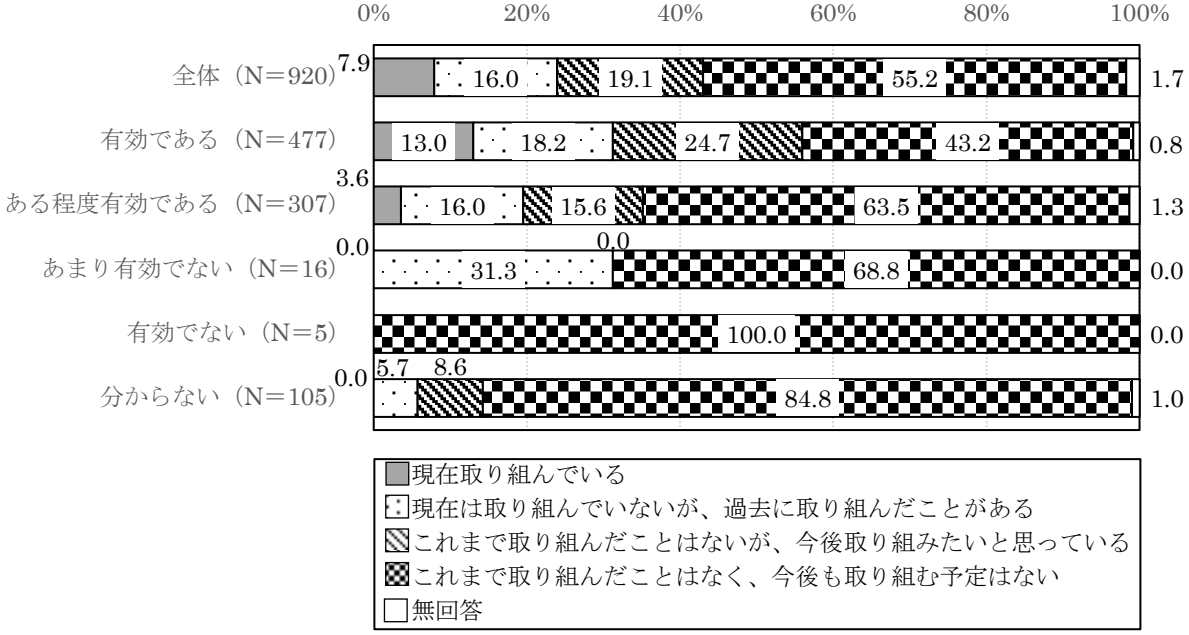

図３－７　堆肥化への関心度別　取り組み状況

（３）取り組んでいる堆肥化の方法

＜問 22 で「１ 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞
問 23　あなたの世帯ではどのような堆肥化に取り組んでいますか。（○は該当するものすべて）

堆肥化に現在取り組んでいる人の堆肥化の方法としては、「コンポスター容器による堆肥化」が 50.7％と最も多く、以下、「密閉式容器による堆肥化」（13.7％）、「ダンボール箱による堆肥化」（11.0％）、となっている。なお、「その他」の内容としては「畑に埋める」が大多数を占めていた。

「コンポスター容器による堆肥化」は前回調査においても最も多かった（51.4％）が、今年度は 1.3 ポイント下回っており、「密閉式容器による堆肥化」は前回調査と比較して 6.6 ポイント増加している。

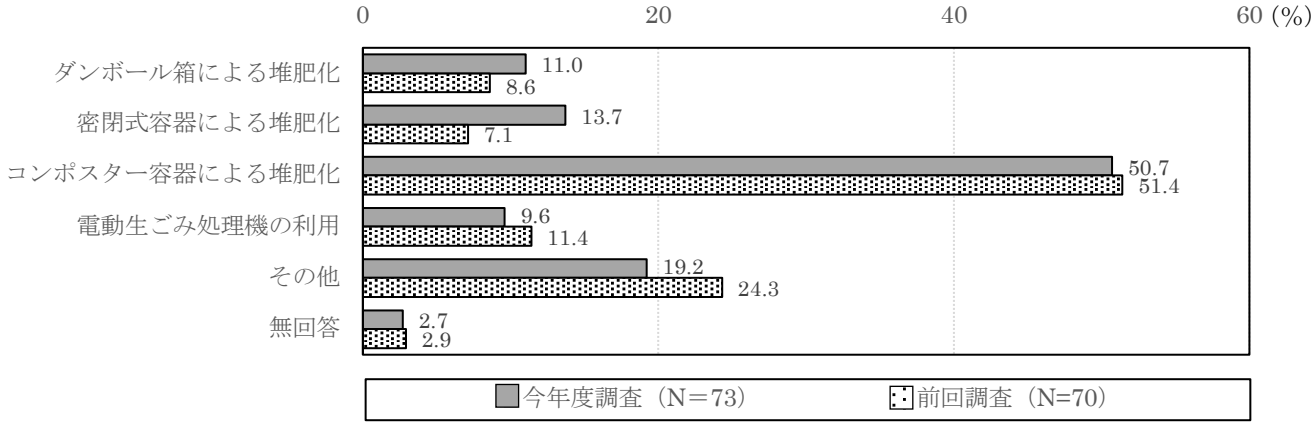

図３－８　取り組んでいる堆肥化の方法

（４）堆肥化実践期間

＜問 22 で「１ 現在取り組んでいる」に○をつけた方に伺います＞
問 24　堆肥化に取り組んでいる期間はどのくらいですか。なお、１年未満の場合は「１年」と記入してください。

堆肥化実践期間は、「30 年以上」が 21.9％と最も多く、以下、「1 年以上～5 年未満」（19.2％）、「20 年以上～30 年未満」（12.3％）となっている。

前回調査で「１年以上～５年未満」と同率で最も高かった「10 年以上～20 年未満」は 17.5％減少している。

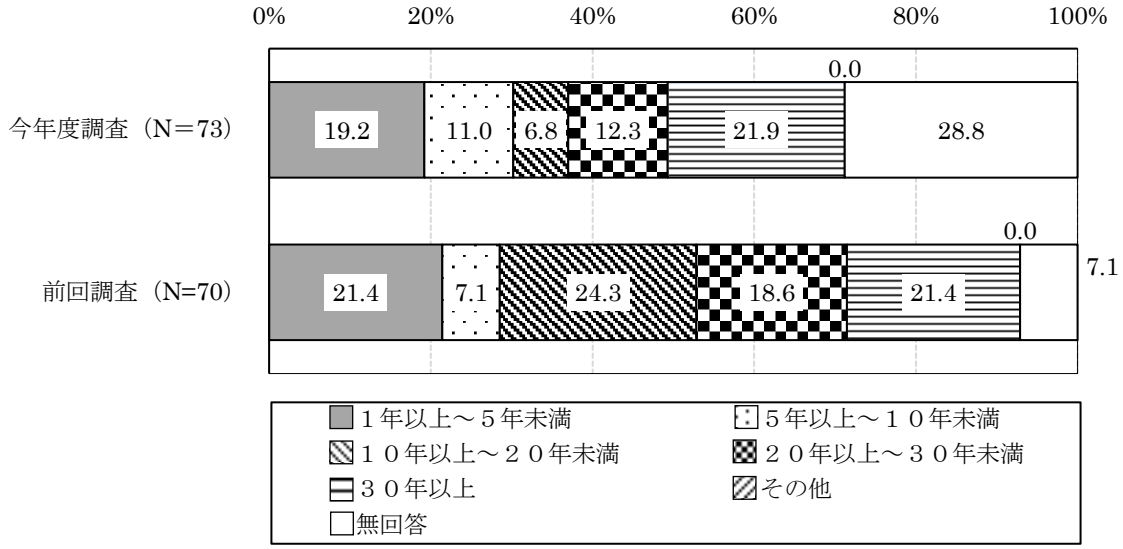

図３－９　堆肥化実践期間

（５）堆肥化に取り組んでいない理由

＜問 22 で「２ 現在は取り組んでいないが、過去に取り組んだことがある」、「３ これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」、「４ これまで取り組んだことはなく、今後も取り組む予定はない」に○をつけた方に伺います＞
問 25　現在、堆肥化に取り組んでいない理由は何ですか。（○は該当するものすべて）

堆肥化に取り組んでいない理由としては、「堆肥の使い道がない」が 39.4％と最も多く、次いで、「堆肥容器の設置場所がない」（39.0％）、「虫、臭いが心配」（36.7％）、「手間がかかる」（33.3％）の順となっている。

なお、「その他」の内容としては、「やり方が分からない」「マンションに引っ越したから」「場所がない」などがあがっている。

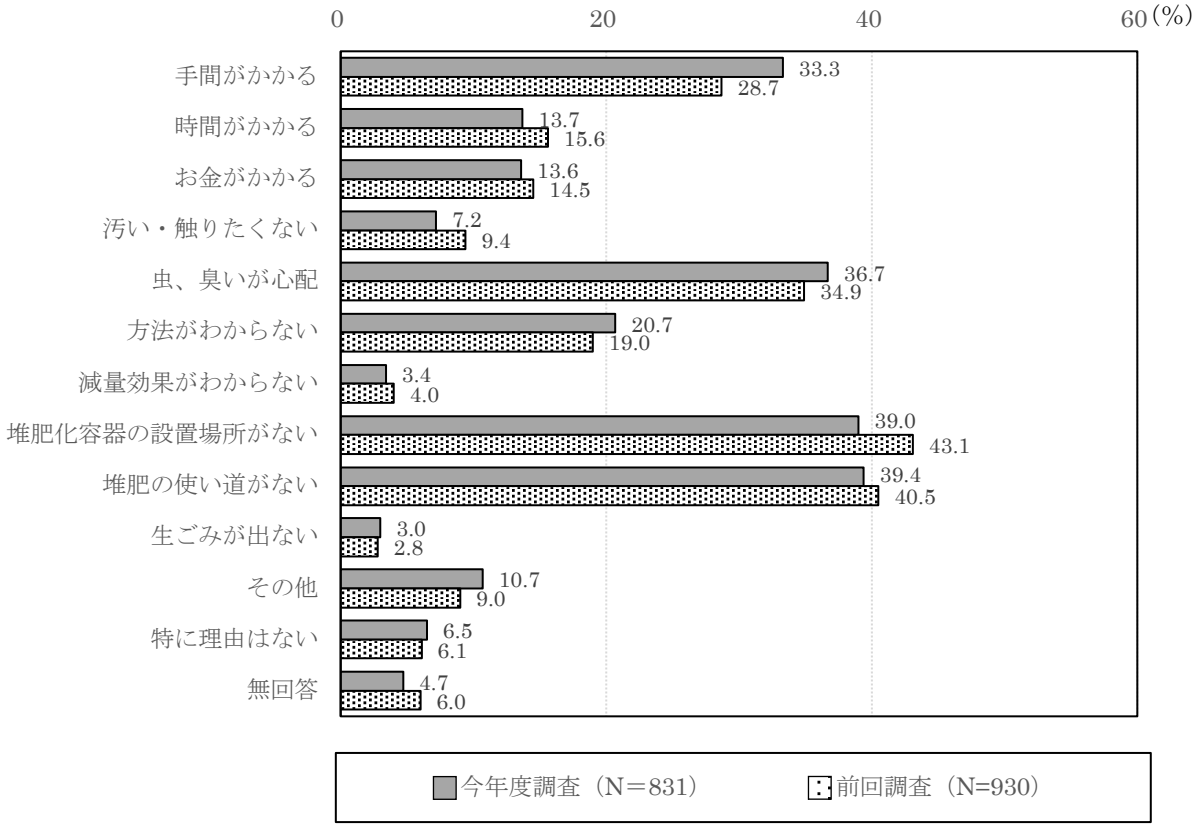

図３－１０　堆肥化に取り組んでいない理由

（６）今後、取り組みたいと思っている堆肥化の方法

＜問 22 で「３　これまで取り組んだことはないが、今後取り組みたいと思っている」に○をつけた方に伺います＞
問 26　今後どのような方法で堆肥化に取り組みたいと思っていますか。（○は該当するものすべて）

今後、取り組みたいと思っている人に、希望する堆肥化方法について尋ねたところ、「コンポスター容器よる堆肥化」が 14.8%と最も多く、次いで、「電動生ごみ処理機の利用」（13.1%）、「密閉式容器による堆肥化」（10.8%）、「ダンボール箱による堆肥化」（9.1%）の順となっている。

「その他」の内容としては、「今の一軒家から出たら出来なくなると思う」などがあがっている。なお、前回調査と比較して、無回答の割合が非常に高くなっている。

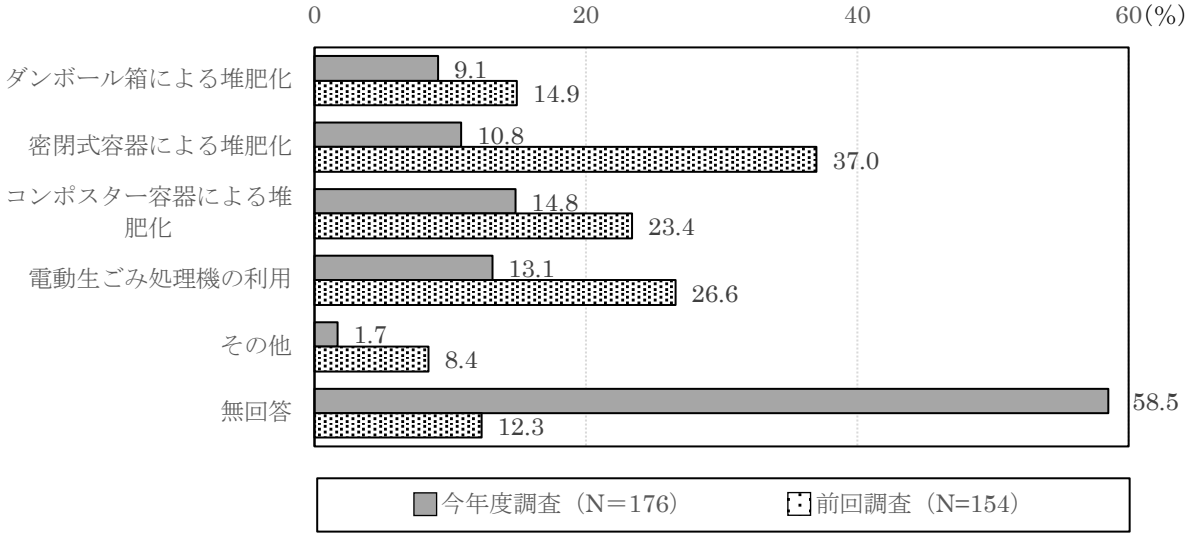

図３－１１　今後、取り組みたいと思っている堆肥化の方法

４　生ごみ減量の施策について

札幌市では、家庭で生ごみの減量・資源化に取り組んでいただくために、様々な施策を実施し、市民の皆様にご案内しています。
生ごみの減量・資源化に関する施策について、以下の質問にお答え下さい。

（１）生ごみ堆肥化セミナーの認知度

問 27　札幌市で実施している「生ごみ堆肥化セミナー」をご存知ですか。（○は１つ）

生ごみセミナーの認知度は、「知らない」が 81.2%と最も多く、前回調査（79.5%）から 1.7 ポイント増加している。以下、「知っているが参加したことはない」（16.3%）、「参加したことがある」（1.4%）となっている。
これを年齢別にみると、70 歳以上では他の年齢層と比較して「知っているが参加したことはない」が高くなっており、「知らない」の割合は、10 歳代と 20 歳代で 100.0%となっており、30 歳代でも 95.3%と若年層の認知度が低くなっている。

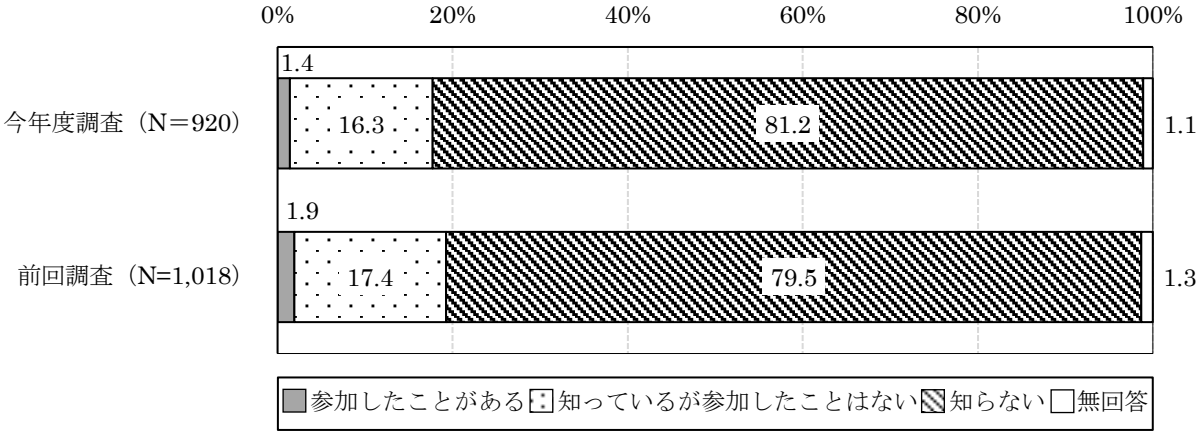

図４－１　生ごみ堆肥化セミナーの認知度

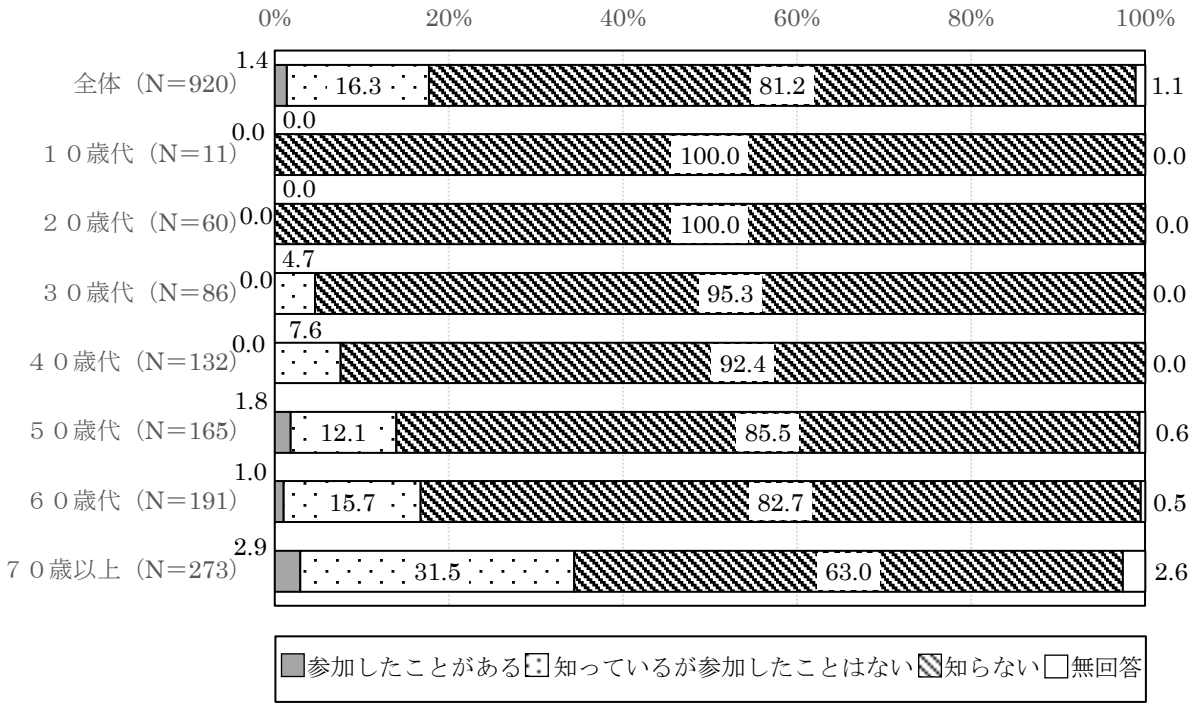

図４－２　年齢別　生ごみ堆肥化セミナーの認知度

また、家族構成別では、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」となっている。また、『夫婦のみ』の世帯は他と比較して「知っているが参加したことはない」の数値が高くなっている。

さらに、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが参加したことはない」となっている。

なお、一戸建てについては「知っているが参加したことはない」が他の居住形態と比較して唯一20%を超えている。

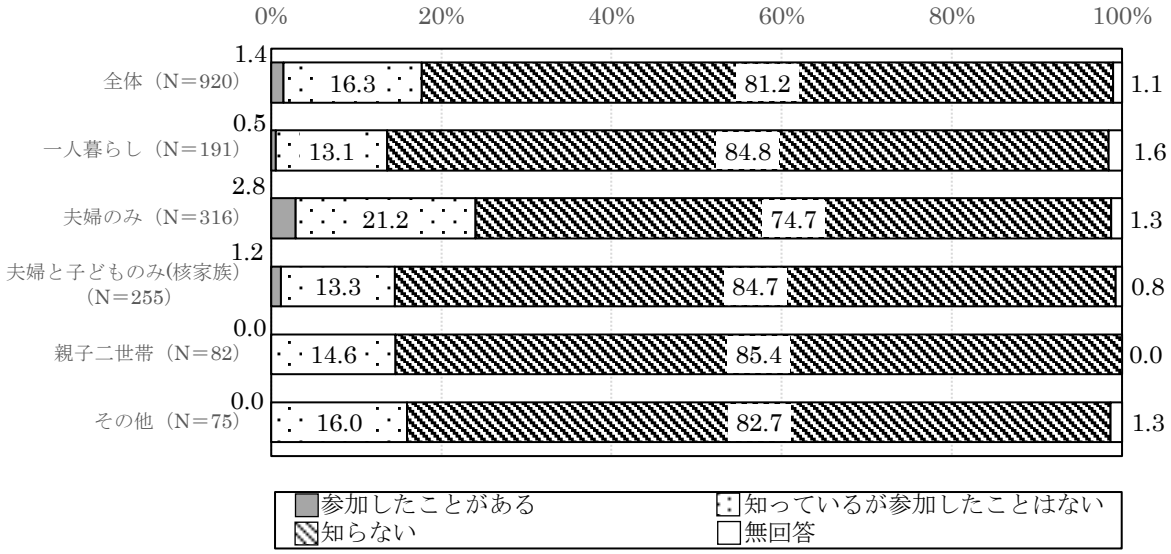

図４－３　家族構成別　生ごみ堆肥化セミナーの認知度

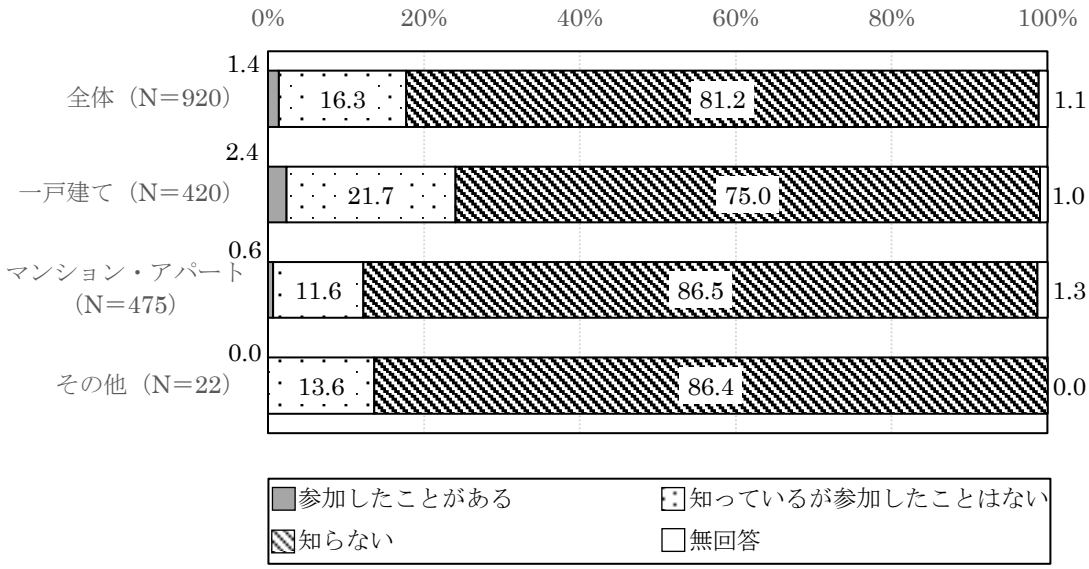

図４－４　居住形態別　生ごみ堆肥化セミナーの認知度

ここで、認知度を堆肥化への関心度別にみると、『分からない』と回答した人では「知らない」の割合が 93.9%と、『有効でない』(100.0%) に次いで高くなっているほか、『有効である』及び『ある程度有効である』のいずれにおいても、全体の傾向と大きな差はみられない。

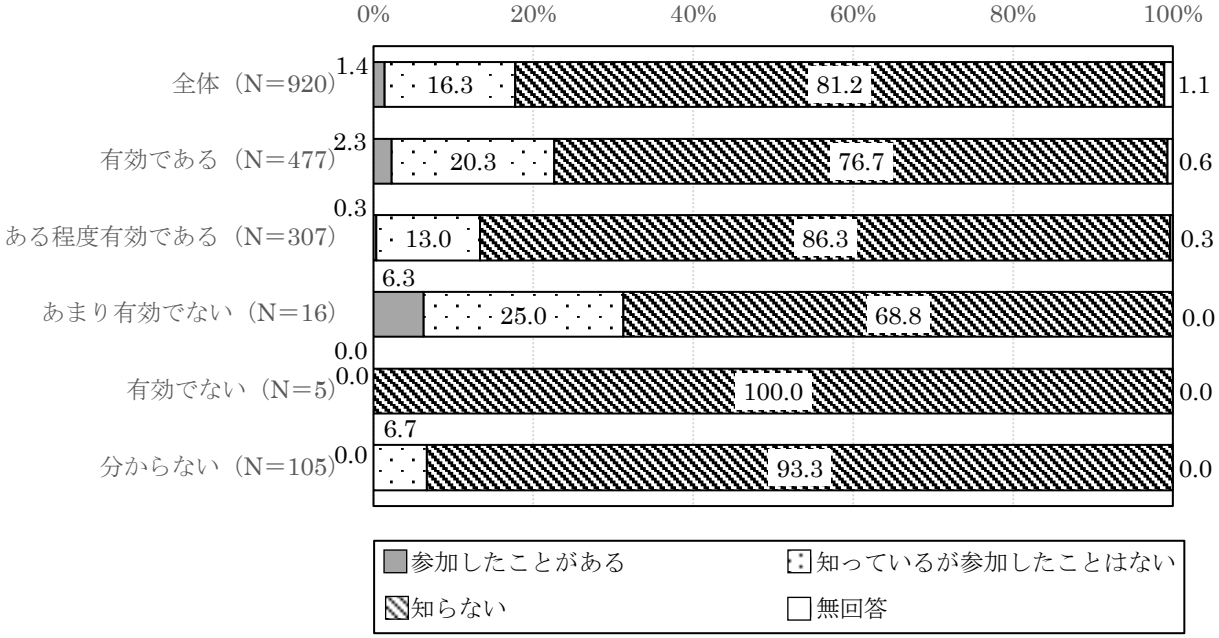

図４－５　堆肥化への関心度別　生ごみ堆肥化セミナーの認知度

（２）生ごみ堆肥化セミナーの認知情報媒体

＜問 27 で「１ 参加したことがある」、「２ 知っているが参加したことはない」に○をつけた方に伺います＞
問 28　何で「生ごみ堆肥化セミナー」を知りましたか。（○は該当するものすべて）

生ごみ堆肥化セミナーを「参加したことがある」又は「知っているが参加したことはない」人の認知情報媒体としては、前回調査（81.6%）と同様に「広報さっぽろを見て」が 80.4%と最も多くなっており、以下、「公共施設での配布チラシを見て」(12.9%)、「知人の紹介」(5.5%) となっており、前回調査と比べて変動がみられる。

なお、「その他」の内容としては、「町内会で堆肥の説明会があった」「区役所に行き知った」などがあがっている。

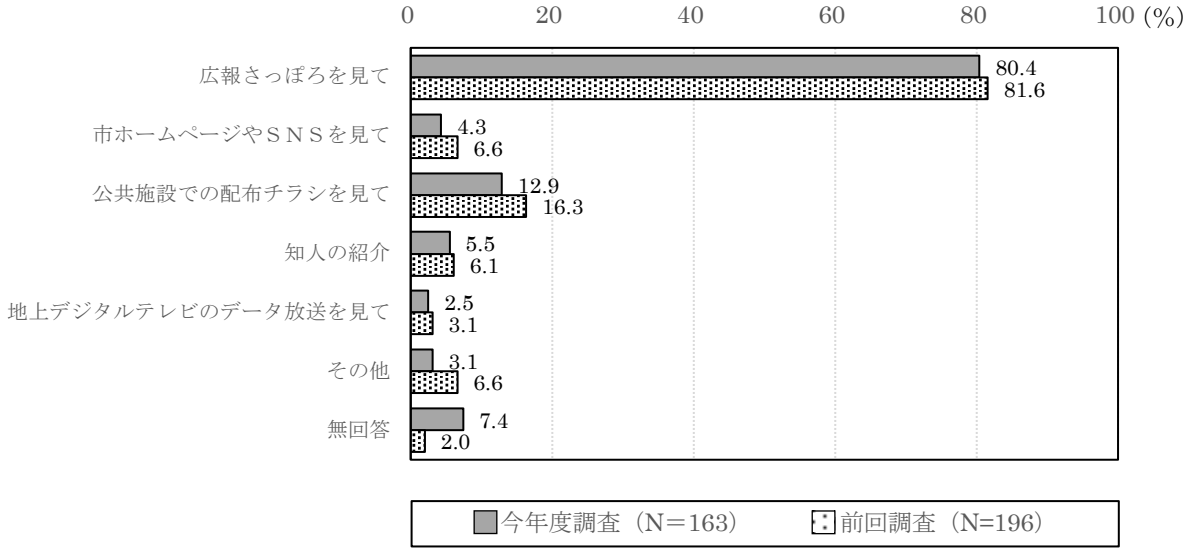

図４－６　生ごみ堆肥化セミナーの認知情報媒体

（３）生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

問 29　札幌市が開設している「生ごみ堆肥化相談窓口」（電話、ＦＡＸ、Ｅメールでの相談）をご存知ですか。（○は１つ）

生ごみ堆肥化相談窓口の認知度は、「知らない」が 90.8％と前回調査と同様最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」（7.3％）、「利用したことがある」（0.1％）となっている。前回調査と比べても、ほとんど数値に変化は見られない。

これを年齢別にみると、回答者数の少ない 10 歳代を除くと、50 歳代以上の高齢層では他の年齢層に比べて、「知っているが利用したことはない」の割合が高くなっており、「知らない」の割合は 70 歳以上を除く全ての年代で 9 割を超えている。

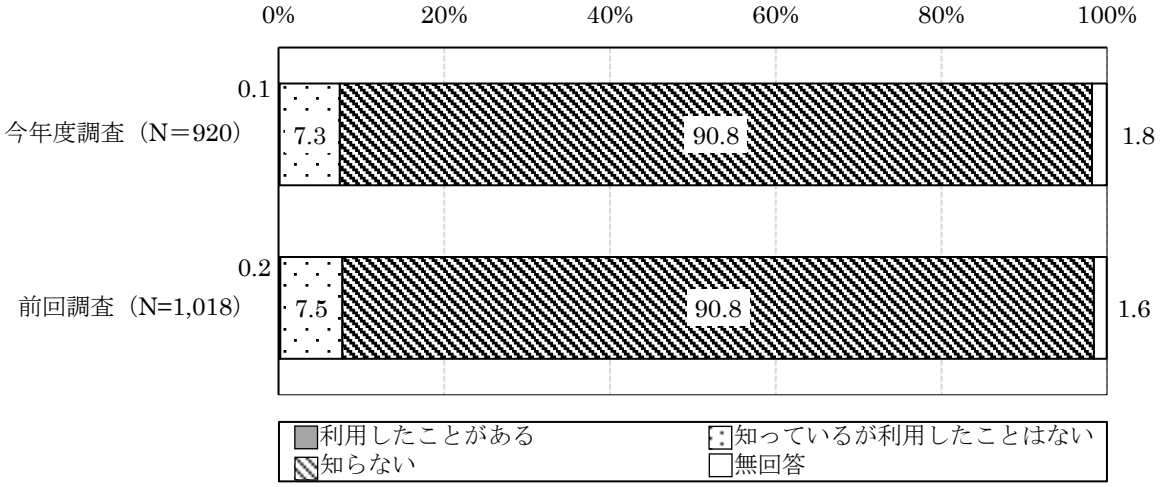

図４－７　生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

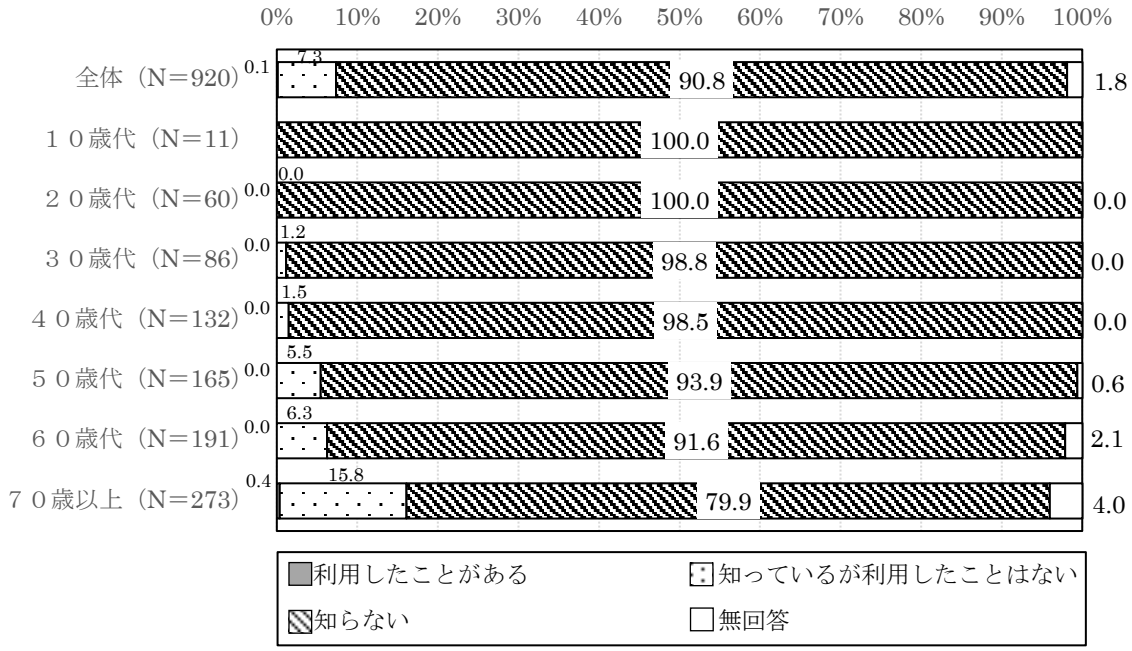

図４－８　年齢別　生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

また、家族構成別では、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、居住形態による大きな差はみられない。

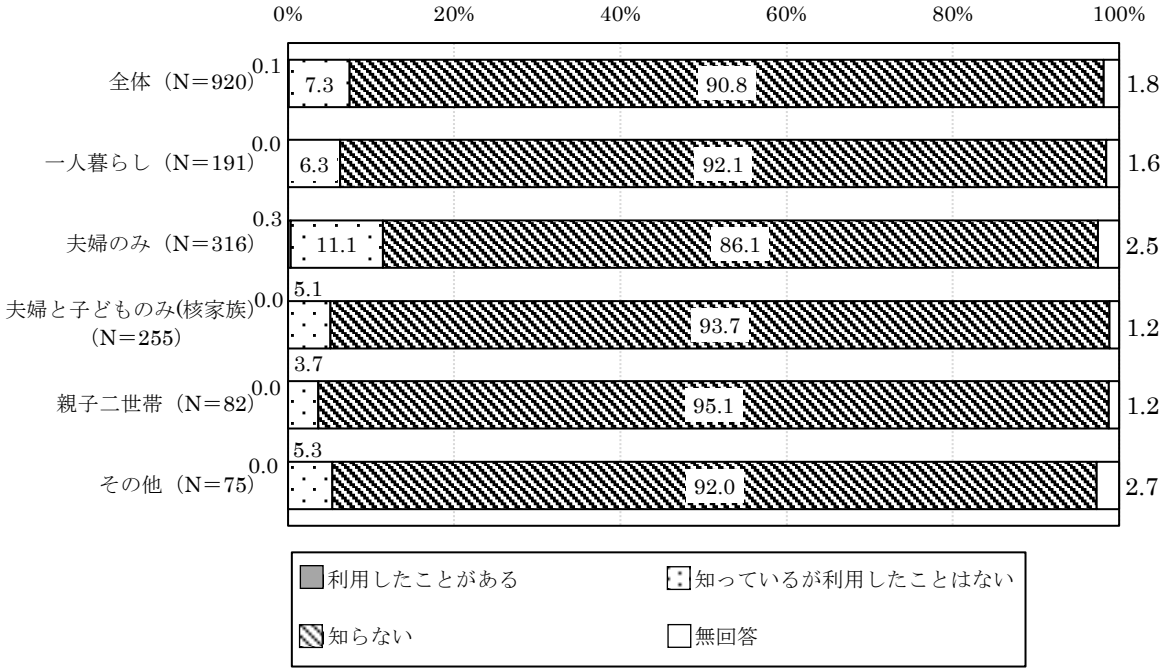

図４－９　家族構成別　生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

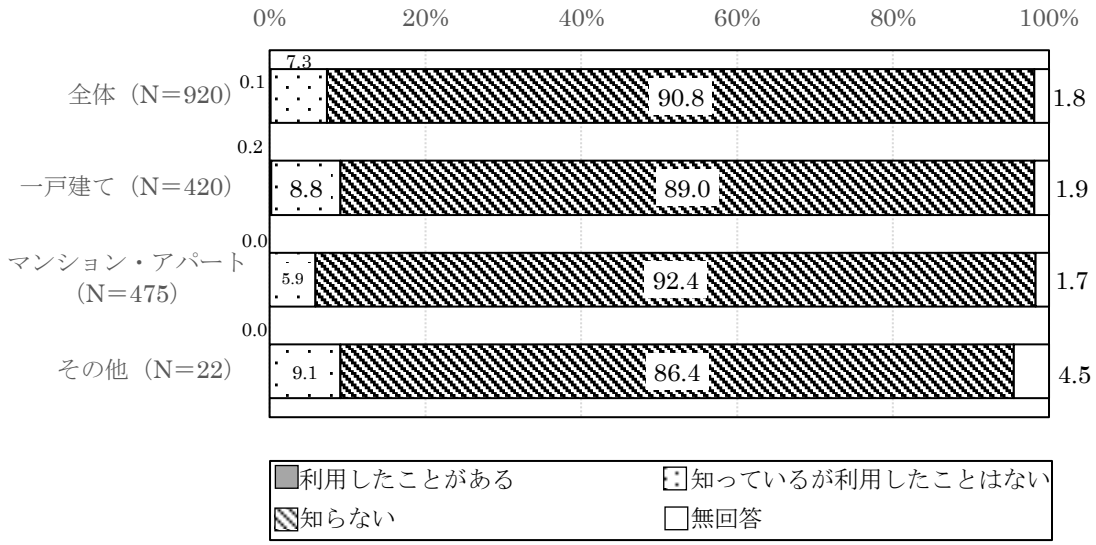

図４－１０　居住形態別　生ごみ堆肥化相談窓口の認知度

一方、認知度を堆肥化への関心度別にみても「知っているが利用したことはない」が全てにおいて 8～9 割を超える結果となった。

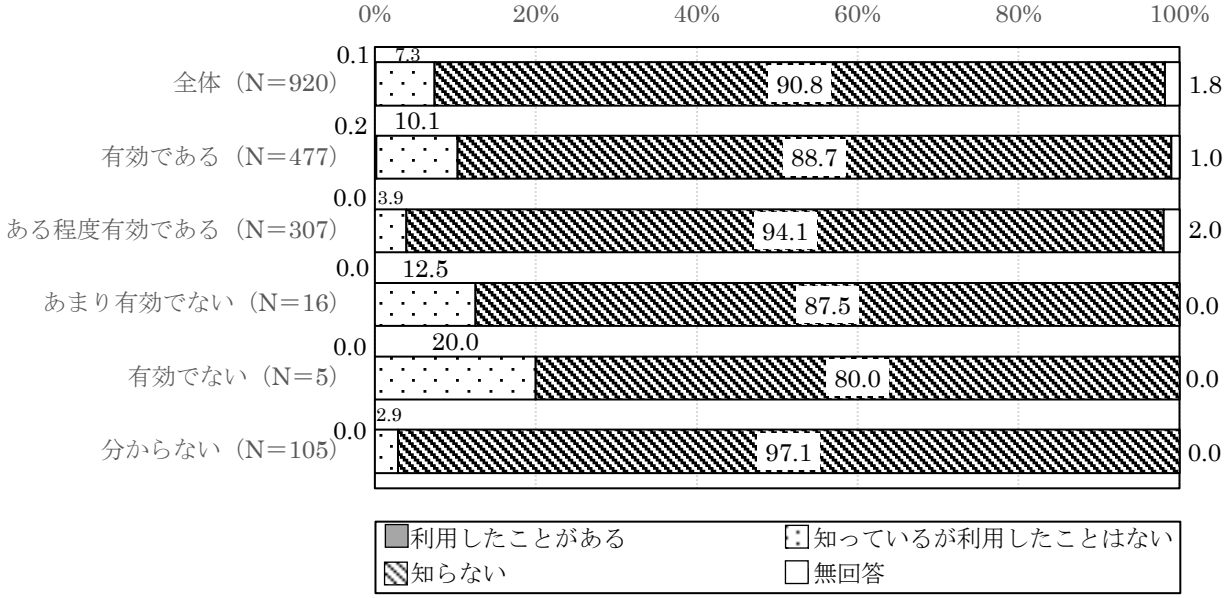

図４－１１　堆肥化への関心度　相談窓口の認知度

（４）生ごみ堆肥化相談窓口の認知情報媒体

＜問 29 で「１　利用したことがある」、「２　知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞
問 30　何で「生ごみ堆肥化相談窓口」を知りましたか。（○は該当するものすべて）

生ごみ堆肥化相談窓口を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が 80.9%と最も多く、以下、「公共施設での配布チラシを見て」（14.7%）、「市ホームページや SNS を見て」（10.3%）の順となっている。

なお、「広報さっぽろを見て」の割合は前回調査に比べて 2.8 ポイント減少しているが、「市ホームページや SNS を見て」は 1.3 ポイント増加している。

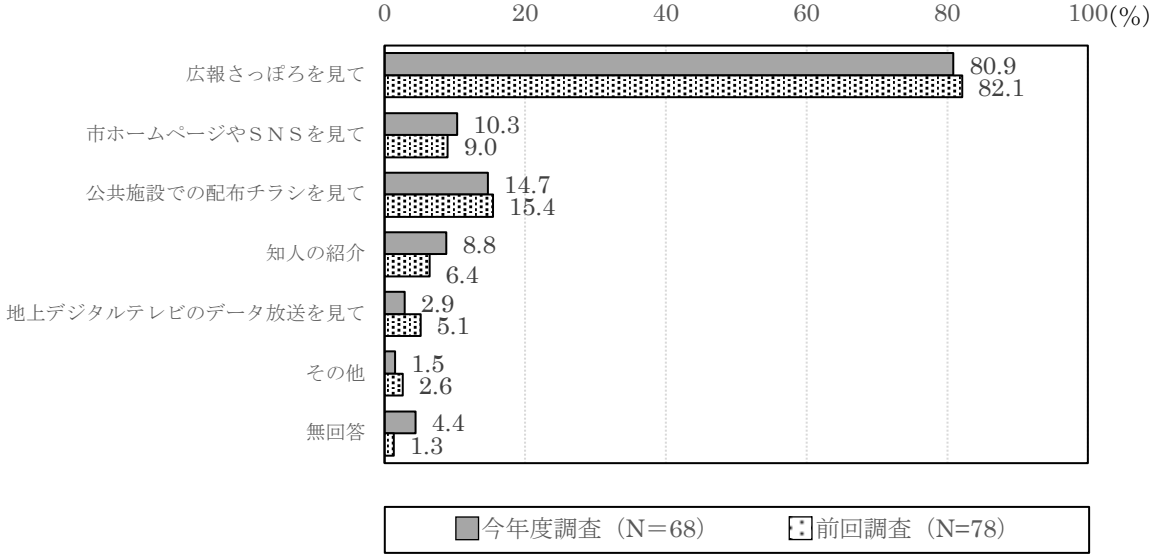

図４－１２　生ごみ堆肥化相談窓口の認知情報媒体

（５）生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

問 31　札幌市が行っている電動生ごみ処理機や堆肥化器材の購入助成の制度をご存知ですか。
（○は１つ）

生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度は、「知らない」が 80.9%と最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」（15.9%）、「利用したことがある」（1.7%）となっている。

前回調査と比べてみると「知らない」は 1.1 ポイント増加している一方、「知っているが利用したことはない」は 0.5 ポイント減少している。

これを、年齢別にみると、回答者数の少ない 10 歳代を除くと、すべての年代で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、利用の可否は問わず高齢層の方が認知度が高くなっている。

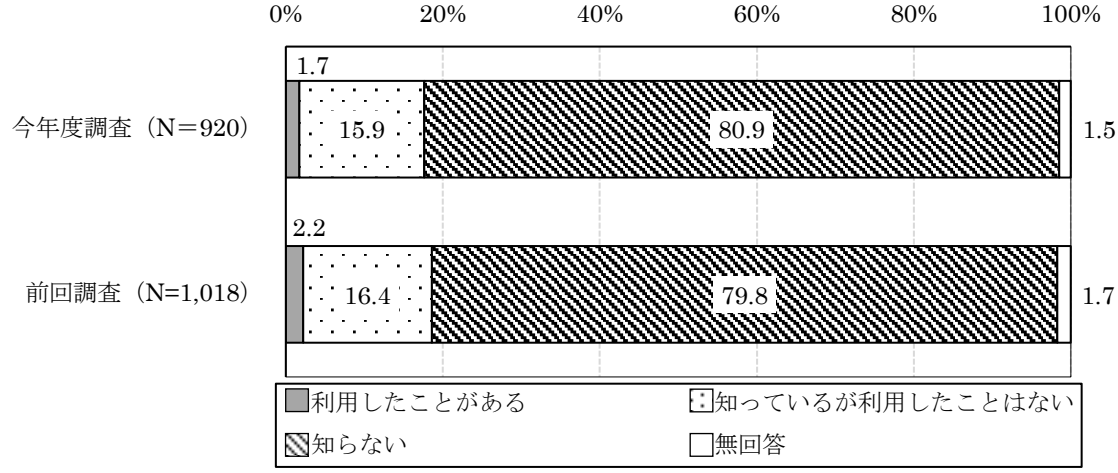

図４－１３　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

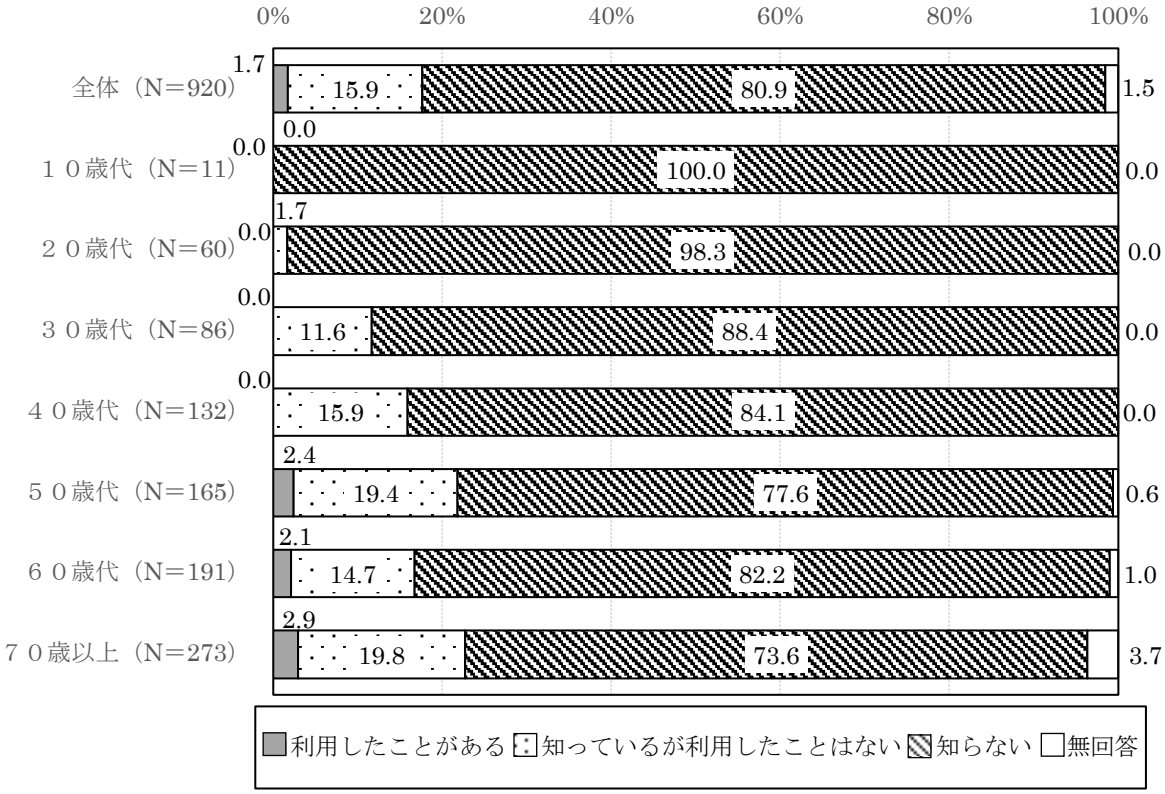

図４－１４　年齢別　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

また、家族構成別では、すべての世帯で「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、特に家族構成による大きな違いはみられない。

さらに、居住形態別にみると、回答者数の少ない『その他』を除くと、一戸建て、マンション・アパートとも「知らない」の割合が最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」となっており、比率に多少の差はみられるものの居住形態による大きな差はみられない。

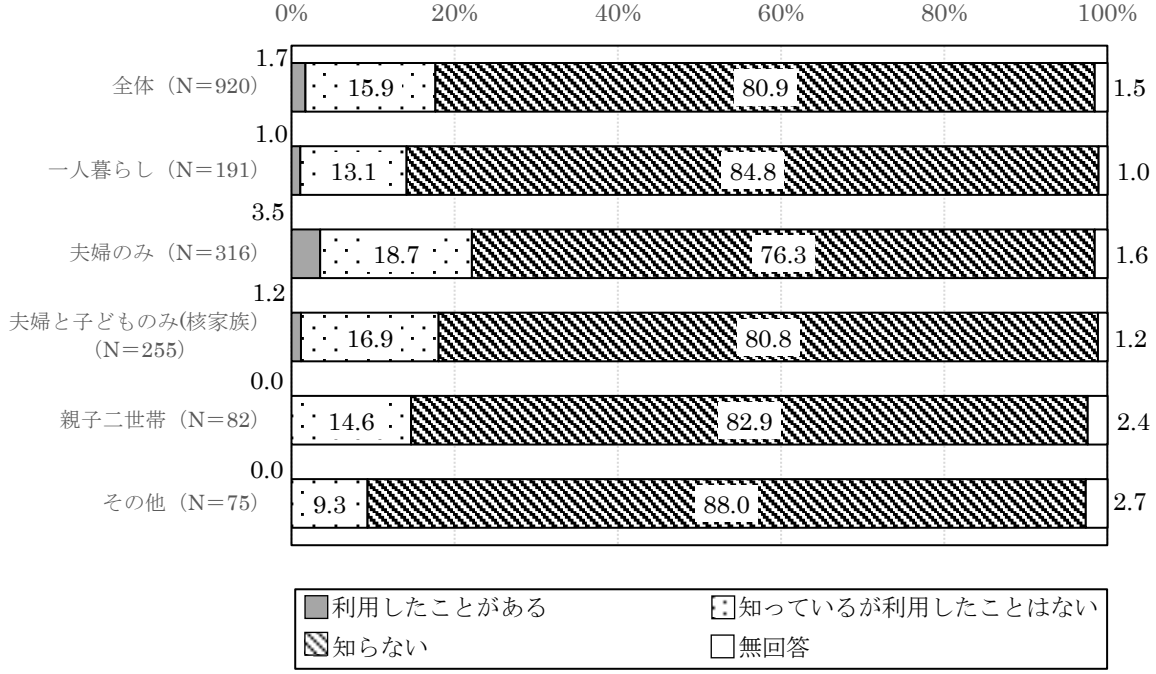

図４－１５　家族構成別　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

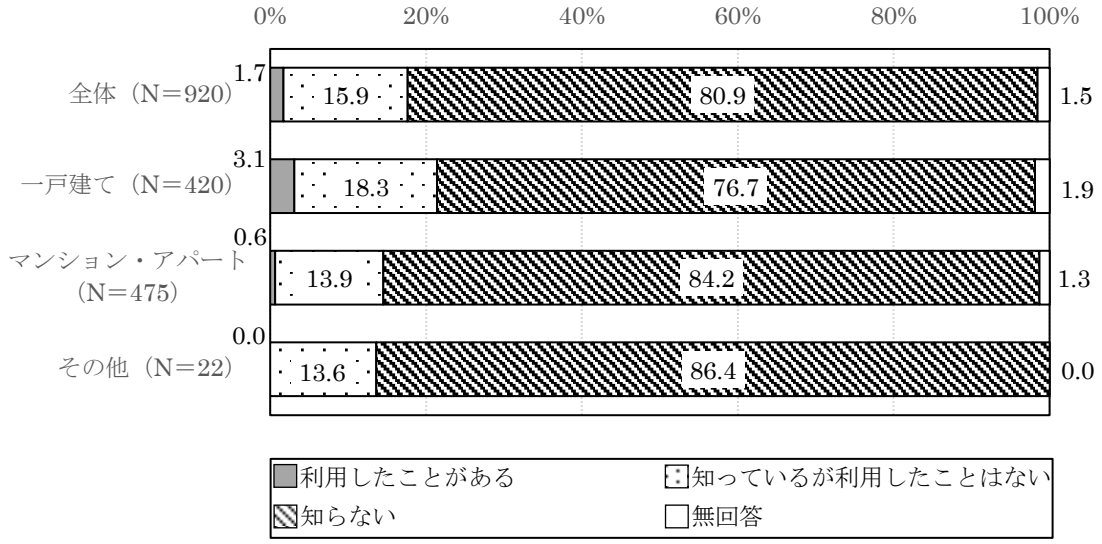

図４－１６　居住形態別　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

ここで、認知度を堆肥化への関心度別にみると、『分からない』と回答した人では「知らない」の割合が 94.3%と、他に比べて高くなっているほかは、『有効である』及び『ある程度有効である』のいずれにおいても、全体の傾向と大きな差はみられない。

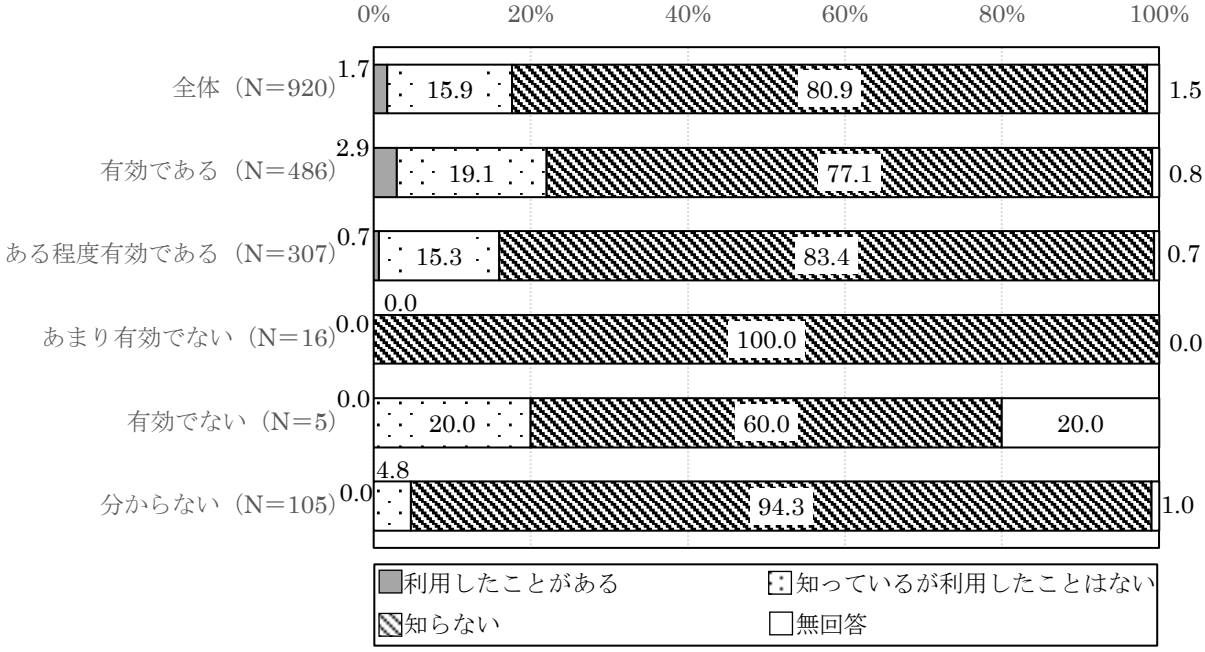

図４－１７　堆肥化への関心度別　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知度

（６）生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知情報媒体

＜問 31 で「１　利用したことがある」、「２　知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞
問 32　何で「購入助成制度」を知りましたか。（○は該当するものすべて）

生ごみ堆肥化機材購入助成制度を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が 79.0%と最も多く、以下、「ごみ分けガイドを見て」(15.4%)、「市ホームページや SNS を見て」(11.7%) の順となっており、前回調査と比較すると「広報さっぽろを見て」が 4.9 ポイント上昇している。

なお、「その他」の内容としては、「札幌市以外の SNS を見て知った」、「職場の関係で知った」、「実家で利用していた」などがあがっている。

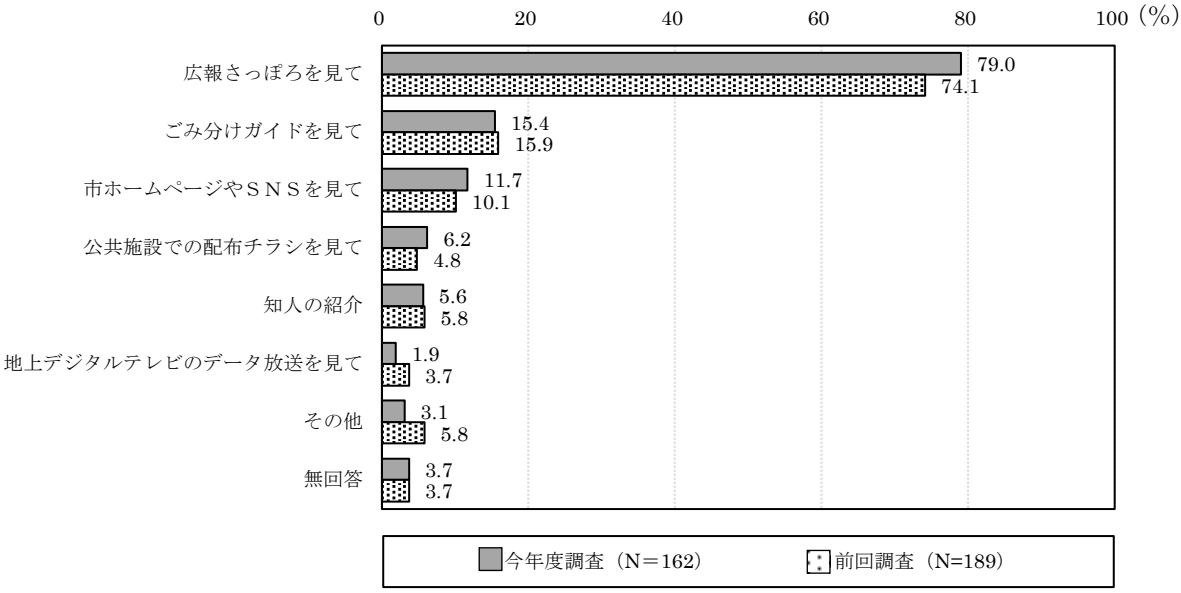

図４－１８　生ごみ堆肥化機材購入助成制度の認知情報媒体

（７）生ごみ堆肥の回収拠点の認知度

問 33　札幌市が市内４か所の地区リサイクルセンターと市内６か所の清掃事務所で、生ごみ堆肥の回収を行っているのをご存知ですか。（○は１つ）

生ごみ堆肥の回収拠点の認知度については、「知らない」が 87.5%と最も多く、以下、「知っているが利用したことはない」（11.0%）、「利用したことがある」（0.4%）となっている。
前回調査と比べてみると「知らない」は約 1.2 ポイント減少しており、「知っているが利用したことはない」は約 2.5 ポイント増加しているものの全体的な傾向に変化はみられない。

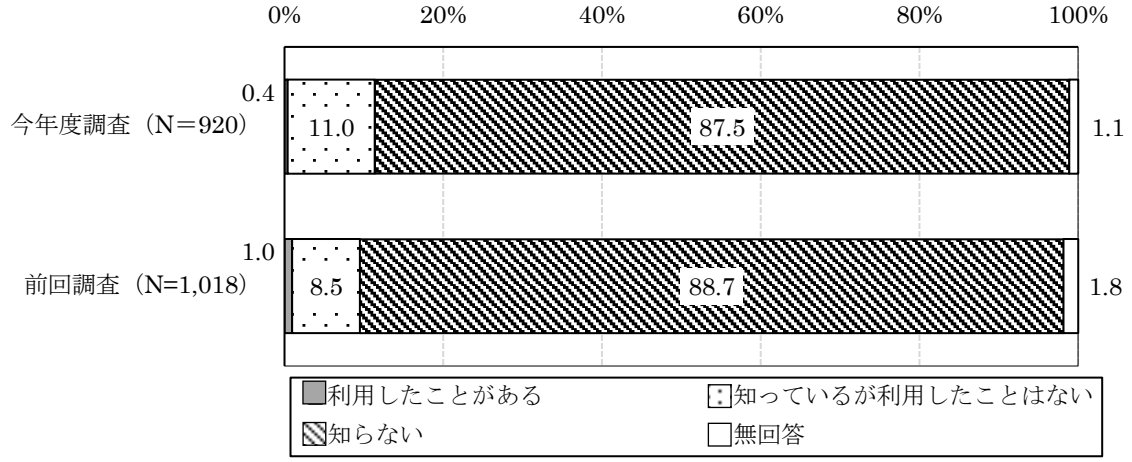

図４－１９　生ごみ堆肥の回収拠点の認知度

（８）生ごみ堆肥の回収拠点の認知情報媒体

＜問 33 で「１　利用したことがある」、「２　知っているが利用したことはない」に○をつけた方に伺います＞
問 34　何で回収拠点を知りましたか。（○は該当するものすべて）

生ごみ堆肥の回収拠点を「利用したことがある」又は「知っているが利用したことはない」人の認知情報媒体としては、「広報さっぽろを見て」が 71.4%と最も多く、以下、「ごみ分けガイドを見て」（38.1%）、「市のホームページや SNS を見て」（10.5%）の順となっている。
なお、「その他」の内容としては、「今回のアンケートをきっかけに知った」などがあがっている。
前回調査と比べてみると、「広報さっぽろを見て」は前回調査より 1.3 ポイント増加しており、「ごみ分けガイドを見て」についても 4.1 ポイント増加している。

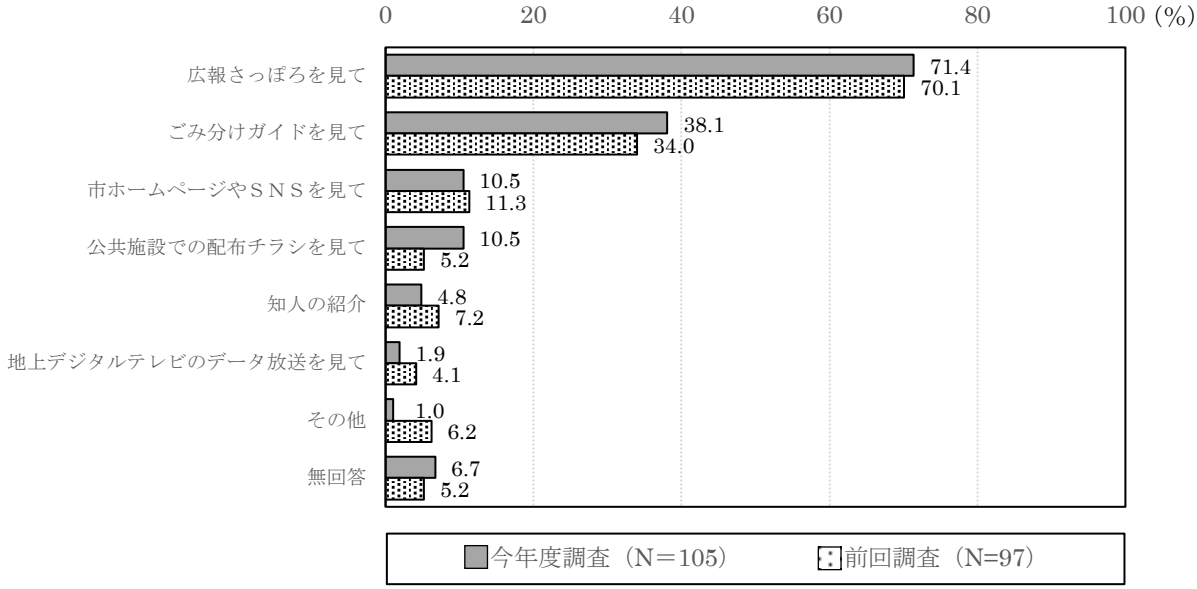

図４－２０　生ごみ堆肥の回収拠点の認知情報媒体

５　回答者属性

「あなた」ご自身のことについておたずねします。該当する番号に○をつけてください。

（１）　性別

問 35　性別を教えてください（○は１つ）

回答者の性別は、今年度調査では前回調査と同様に「女性」の割合が 61.0%、「男性」の割合についても 38.7%となっており、前回調査と比べても性別の構成に大きな差はみられない。

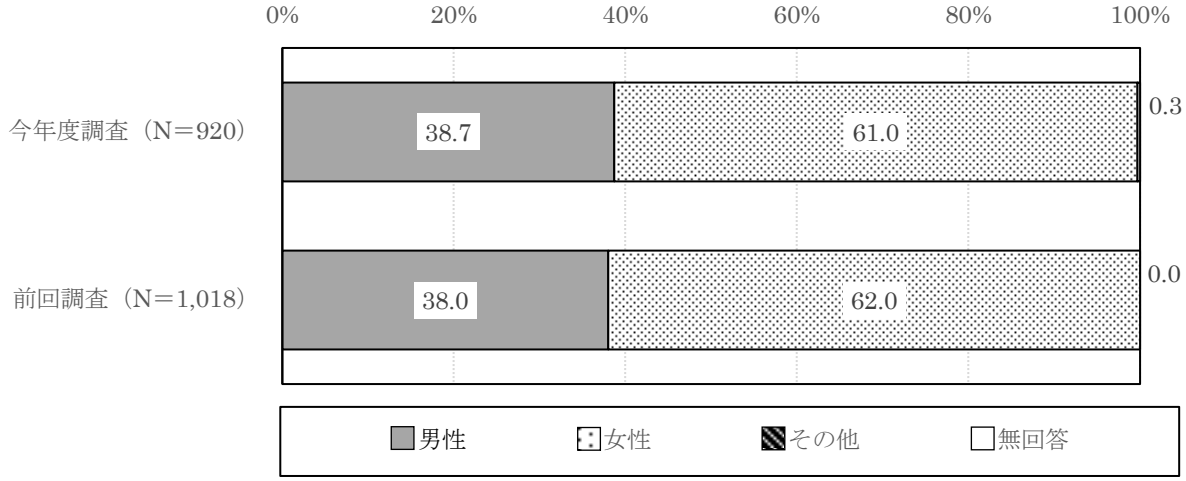

図５－１　性別

（２）　年齢

問 36　年齢を教えてください（○は１つ）

回答者の年齢は、「70 歳以上」が 29.7%と最も多く、次いで「60 歳代」(20.8%)、「50 歳代」(17.9%)、「40 歳代」（14.3%）の順となっており、「70 歳以上」は、前回調査（26.3%）よりも 3.4 ポイント増加している。

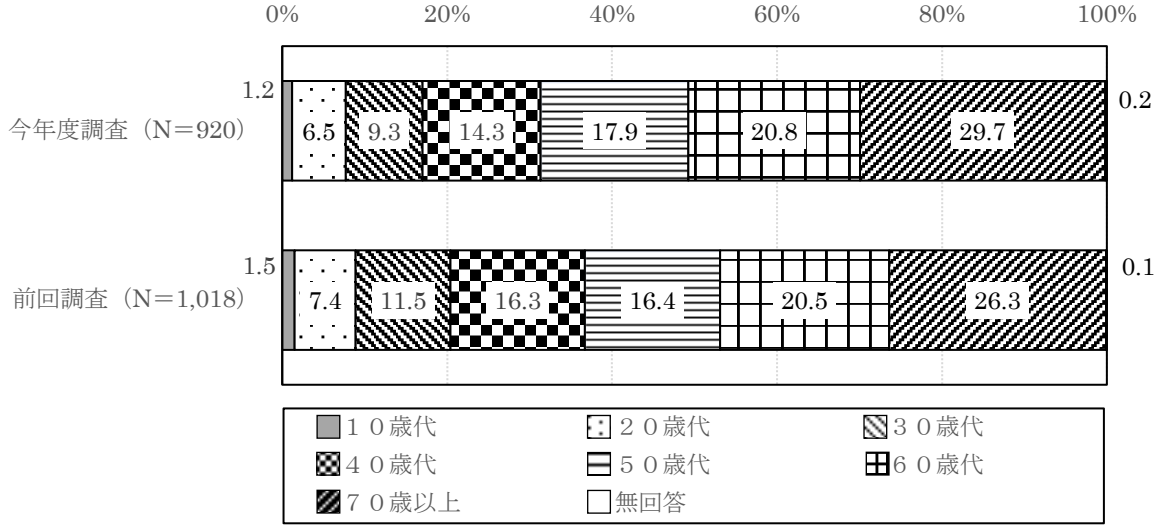

図５－２　年齢

（３） 家族構成

問 37　家族構成は次のどれに該当しますか（○は１つ）

回答者の家族構成は、「夫婦のみ」が 34.3%と最も多く、以下、「夫婦と子どものみ（核家族）」(27.7%)、「一人暮らし」(20.8%) となっている。

前回調査で最も多かったのは、「夫婦と子どものみ（核家族）」(32.2%) であったが、今年度調査では 4.5 ポイントの減少が見られた。

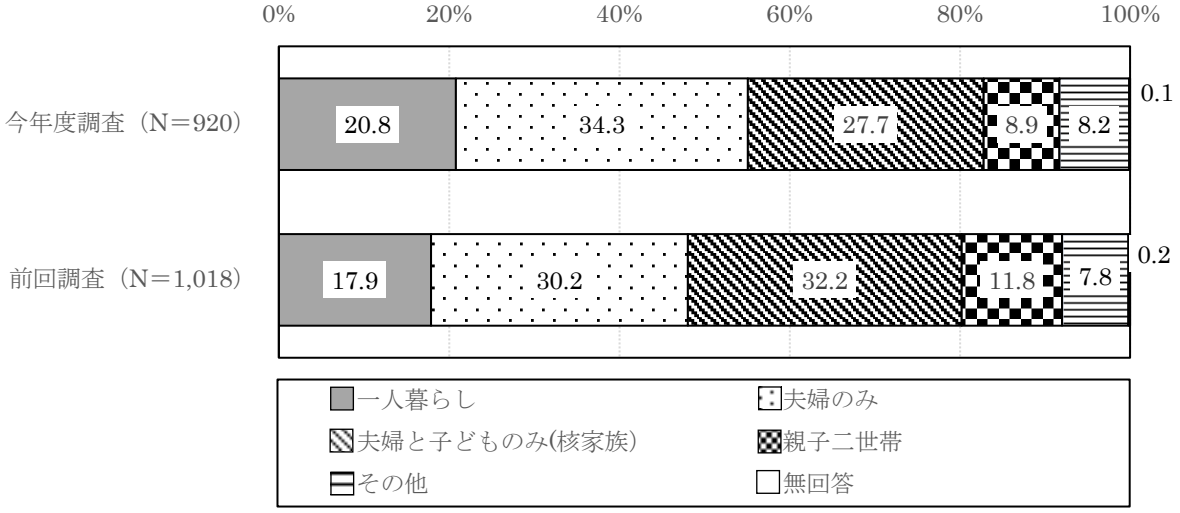

図５－３　家族構成

（４） 居住形態

問 38　お住まいの住宅は次のどれに該当しますか（○は１つ）

回答者の居住形態は、「マンション・アパート」が 51.5%と最も多く、次いで「一戸建て」(45.7%) となっている。

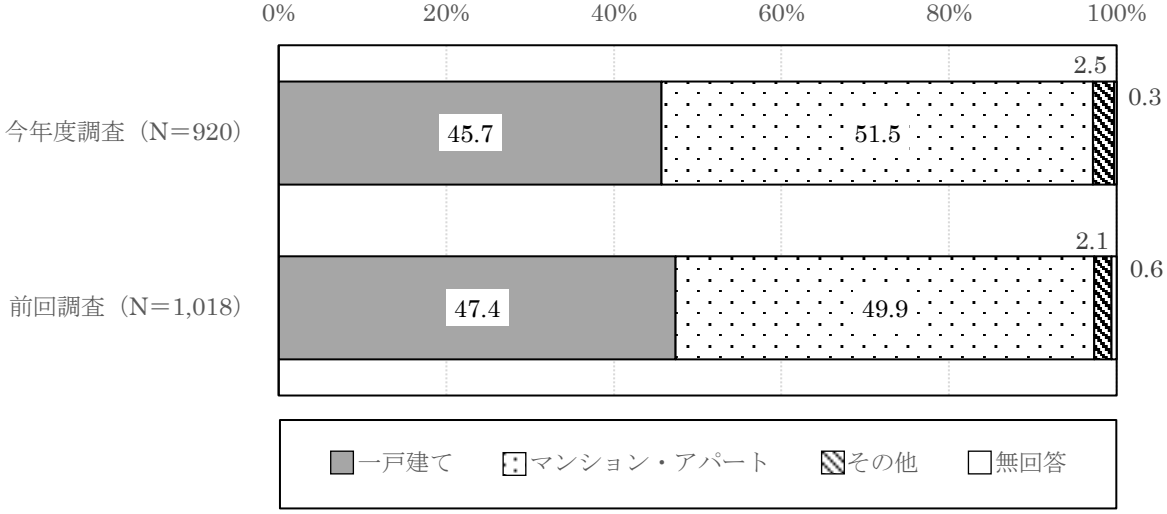

図５－４　居住形態